

# 松浦市ひやーし景観まちづくり推進方策

所 在 地：長崎県松浦市  
Location : Matsuura city, Nagasaki prefecture

事業主体：松浦市役所都市計画課  
Project Implementing Body : City Planning Division,  
Matsuura City Hall

事業期間：2012年度- 2015年度  
Term : 2012 - 2015

# 松浦市の概要



- 九州の北西部に位置し、人口23,933人、面積130.38km<sup>2</sup>（2015年12月末日現在）
- 平成18年（2006）1月1日に1市2町（旧松浦市、旧福島町、旧鷺島町）で合併し、伊万里湾を囲むように広がった。

# 松浦市の景観的特徴



土谷棚田



星鹿漁港



県指定史跡松浦党梶谷城跡



市指定無形文化財星鹿ジャンガラ

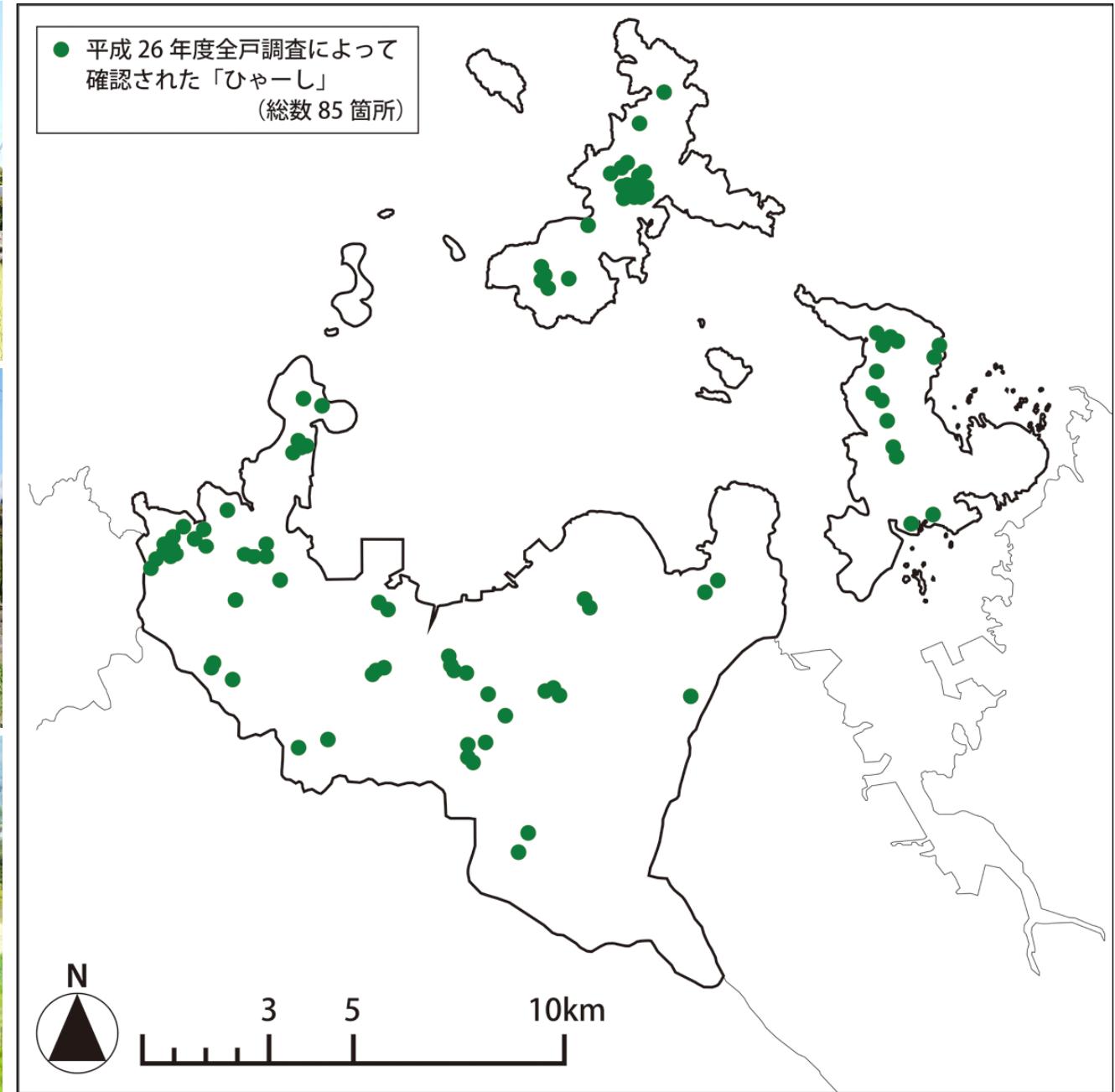
→棚田や段々畑などの田園風景が多く見られ、海岸沿いには漁港や漁業集落がある。また松浦党や元寇に縁のある史跡、浮立やジャンガラといった伝統ある有形・無形文化財も多い。

# ひやーしとは



- 松浦市には、マキやツバキで造られた高生垣が数多く分布しており、地元では「ひやーし」という呼称によって親しまれている。
- 平成16年には、松浦地域の景観を象徴する特徴的な造形であることから「御厨の林叢群」が長崎県まちづくり景観資産に登録された。 4

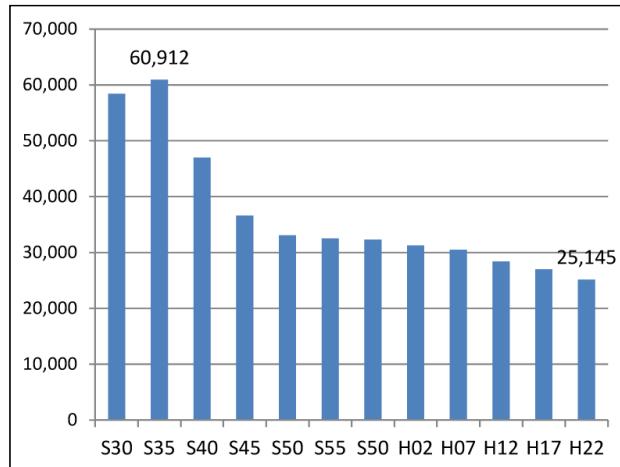
# ひやーしとは



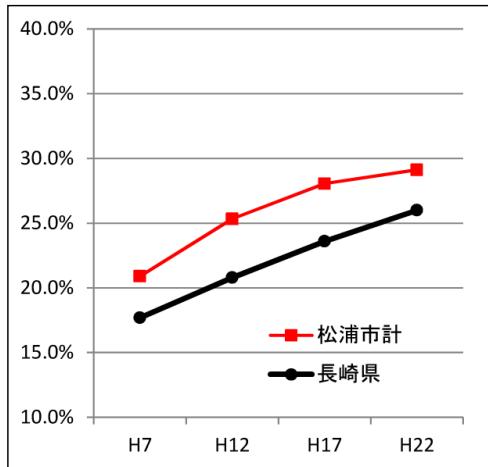
- 門をアーチ状に形づくるなど、いくつかの特徴的な形態があり、所有者それぞれの工夫がなされている。
- 福島・鷹島地域も含め市全域にわたり数多く分布している。

# 松浦市景観基本計画策定の経緯

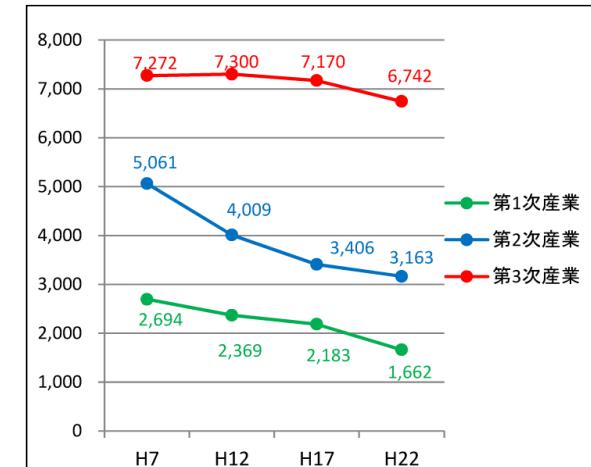
- 人口減少や少子高齢化、第1次産業就業者人口の減少及び後継者不足、耕作放棄地の増加が進んでおり、  
松浦らしい農漁村の生活景観が失われることが懸念されている。



国勢調査人口の推移



65歳以上人口比の推移



産業別就業者数の推移

- 松浦市は、平成24年（2012）3月に景観行政団体へと移行し、平成25年（2013）3月には市の美しい自然風景や町並みの保全活用に関する方針を示すための「松浦市景観基本計画」が策定された。

日付	項目	主な内容	
平成 24 年度	10/1・2 第1回松浦市景観基本計画策定委員会	・現地視察会	・松浦市景観基本計画策定の進め方
	11/8 第2回松浦市景観基本計画策定委員会	・松浦市景観基本計画策定の目的と進め方 ・地域の景観を維持しているまちづくり活動	・市民意向反映の取り組み ・意識啓発の取り組みについて
	1/18 第1回松浦市景観基本計画策定委員会内検討会	・学識者（松浦市景観基本計画策定委員会 座長）による講話「景観を活かしたまちづくりについて」	・景観計画策定のスケジュール ・松浦市景観基本計画策定の進め方 ・松浦市景観基本計画の骨子
	1/24 第3回松浦市景観基本計画策定委員会	・松浦市景観基本計画策定委員会素案について	・景観シンポジウムについて
	2/15 第2回松浦市景観基本計画策定委員会内検討会	・松浦市景観基本計画の素案	
	2/23 景観シンポジウム「松浦の景観のいまとこれから」 第4回松浦市景観基本計画策定委員会	【景観シンポジウム】 ・基調講演「景観を活かしたまちづくりのすすめ」 ・松浦市景観基本計画について ・パネルディスカッション	【第4回松浦市景観基本計画策定委員会】 ・松浦市景観基本計画策定委員会について
平成 25 年度	4/23 第5回松浦市景観基本計画策定委員会	・第4回松浦市景観基本計画策定委員会議事内容の確認 ・パブリックコメントについて（報告）	・松浦市景観基本計画（案）について ・景観シンポジウムについて（報告）

→策定委員会（計5回）ならびに府内検討会（計2回）において、景観基本計画策定に係る検討・協議・調整がなされた。

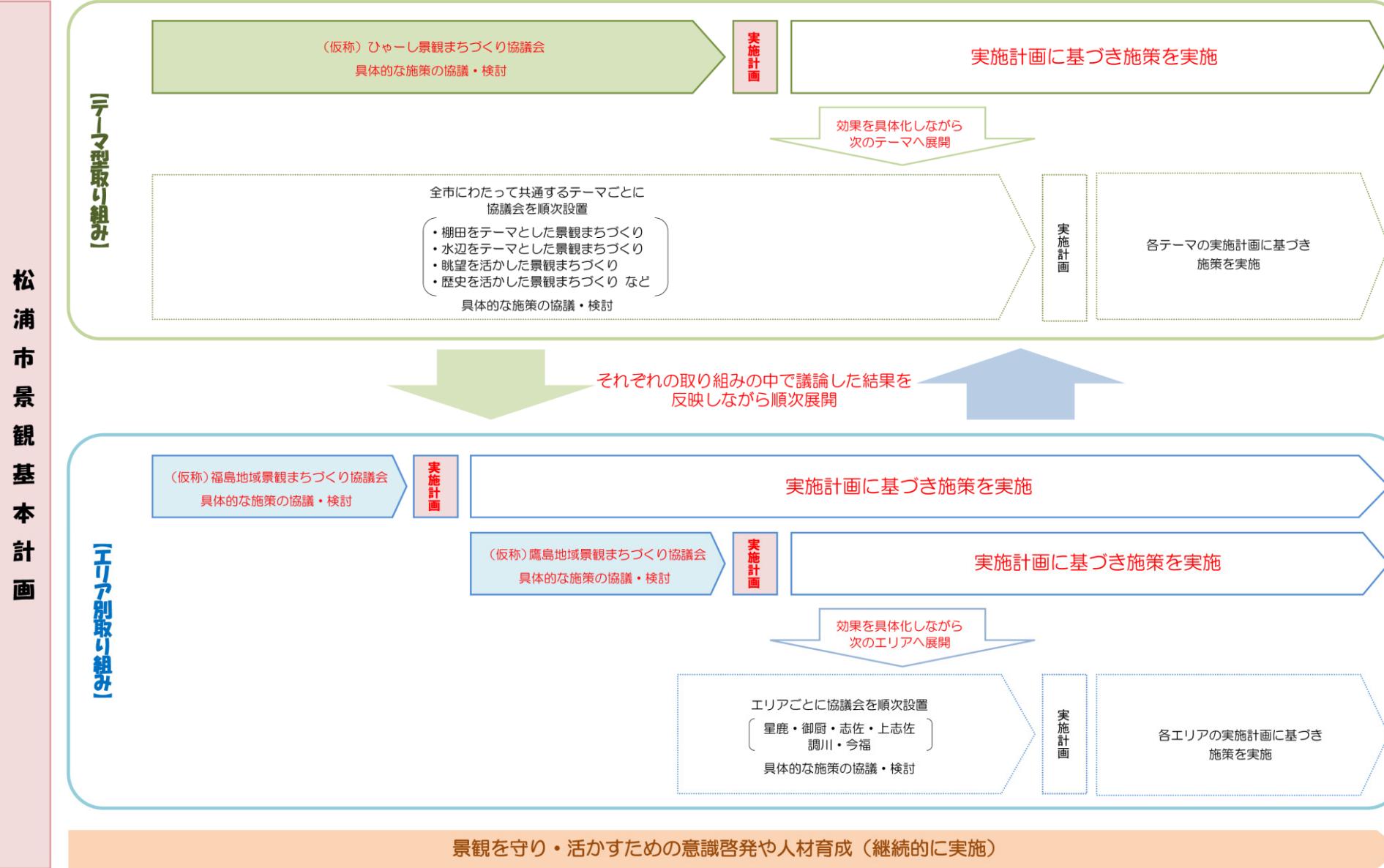
# 施策の展開方針

(引用) 松浦市景観基本計画

平成 25 年度

平成 26 年度以降

(仮称) 松浦市景観基本計画推進委員会による景観まちづくりの進行管理  
実施計画の相互調整・次に取り組むべきテーマ・エリアの検討

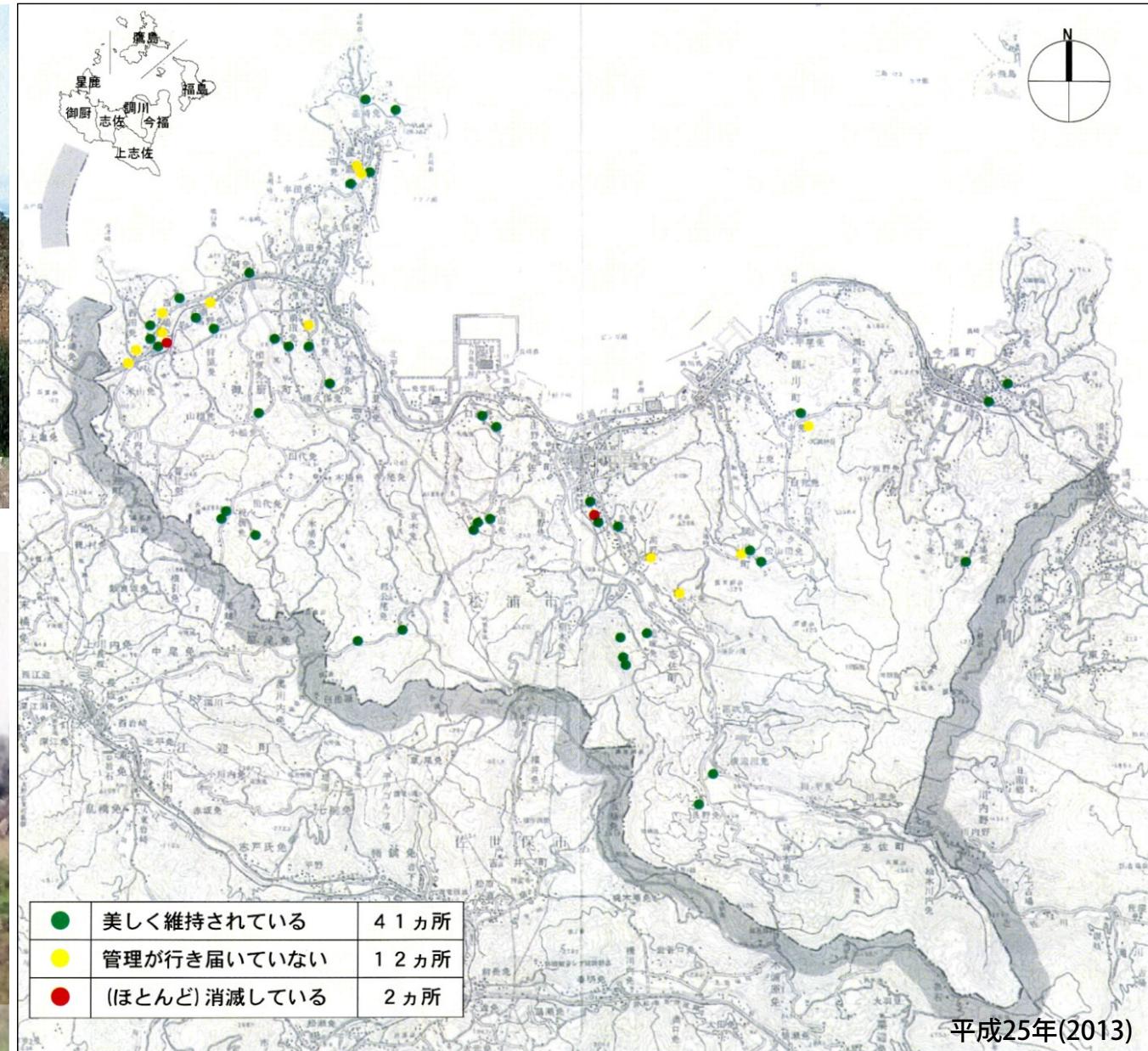


→ひやーし景観まちづくりは、松浦市が抱える課題に対応する必要性・緊急性が高く、市全域に共通するテーマとして位置付けられており、先導的に取り組みが行われる施策である。

「住み続けたい・住んでみたい・訪れてみたい・故郷に帰りたい」魅力ある松浦

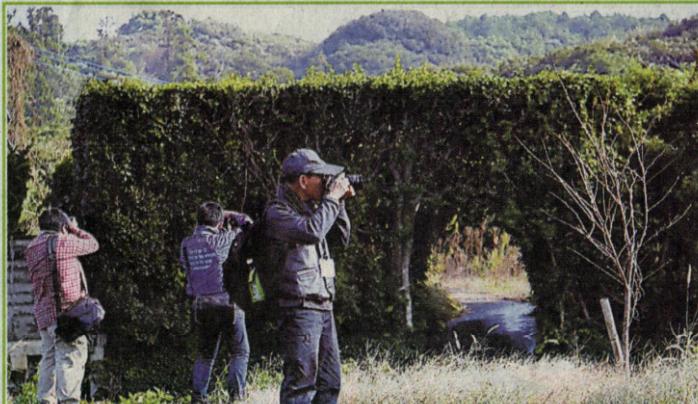
# ひやーしの現状と課題

(引用) 松浦市作成資料



□ 写真のように、近年では、所有者の高齢化や後継者不足により管理が行き届いていないものが増えており、ひやーしは減少と荒廃の危機に瀕している。

→このような問題を解決するためにも、ひやーしが持つ価値の検証、共有、さらに保全活用への展開の必要性が挙げられる。



## 松浦の景観保全

松浦市は美しい自然風景や町並みの保全活用に向けた指針となる景観基本計画の案をまとめた。市内各地に点在する「ひやーし」と呼ばれる高い生け垣などをモデルケースとし、新年度から具体策を協議する。

◀ 松浦市内で見られる巨大な生け垣の  
「ひやーし」  
＝同市御厨町

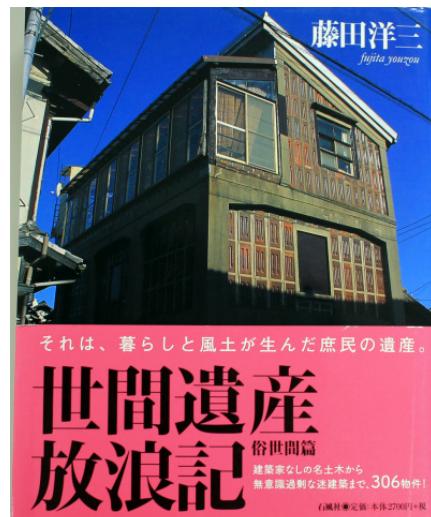
# まず「ひやーし」から

## 市が基本計画案 「住みたい」「訪ねたい」地域へ

市は昨年10月、市民代表や町づくりの専門家を交えた景観基本計画策定委員会を設置。市民アンケートを踏まえ、重視すべき景観や課題を話し合ってきた。計画案では、同市の特性に▽伊万里湾を取り囲む美しい海岸線▽棚田や漁港といった農漁業の営みがつくり出す風景▽鎌倉時代の元寇に代表される史跡など活動の担い手の不足や高齢化を問題視。課題を克服して「住んでみたい」「訪れてみたい」と思う地域にすることをビジョンに掲げた。

まず、ひやーしのほか福島地域と鷹島地域に絞り、元寇船が見つかった鷹島神崎遺跡の保存管理計画が策定された後、議論に入る。計画案は市ホームページや市役所などで閲覧でき、市は内容について市民からの意見を募るパブリックコメントを26日まで実施中。問い合わせは市都市計画課(電0956・72・11)。

(原口司)



## 世間遺産放浪記

建物家なしの名土木から無產譲過剰な迷建築まで、306物件!  
石川井・定義 本体2700円+税



295  
ひやーし  
(長崎県松浦市御厨町)  
撮影者・島本佳枝さん

松浦の高生垣、ひやーし、林叢と書くらしいは横や椿でつくられた、高さ2~4m、幅1mほどの生垣。松浦全域に点在し、特にこの御厨町に多く見られる風景だという。その意匠は多様で、防風、防潮、外からの目隠しや、自然の空調機能に加え、美しい景観をかもし出している。防風林だけではなく、千葉や三重宮城富山ほか沿岸の各地で見られるものだが、しつそこうした地域を束ね、「ひやーし同盟」でも結成してはどうだろう。

→景観基本計画策定について記載された長崎新聞紙面。また以前、暮らしと風土が生んだ庶民の遺産『世間遺産』のひとつとしてひやーしが取り上げられた。

# 平成25年度のプロセス内容

日付	項目	主な内容	
平成 25 年度	4/23 現地踏査・ひやーし所有者（1名）へのヒアリング調査	・ひやーしを設けた経緯 ・剪定について ・ひやーしを通した地域のつながりについて	
	7/9 福大・九大打合せ	・事務・雑務事項の確認 ・ひやーし景観まちづくりについて	・福島地区景観まちづくりについて ・当面の日程について
	7/30・31 ひやーし所有者（1名）へのヒアリング調査 事務局協議（3者）	【ひやーし所有者（1名）へのヒアリング調査】 ・ひやーしの歴史 ・維持管理について ・ひやーしの良い点 ・価値の認識 ・今後の維持について	【事務局協議（3者）】 ・事務局顔合わせ ・第1回協議会の参加者候補、議事次第案の確認 ・今年度のスケジュール確認
	9/25 松浦史料博物館学芸員（1名）へのヒアリング調査	・平戸藩の歴史について	・史料調査
	10/3・4 第1回ひやーし景観まちづくり協議会 事務局協議（3者） ひやーし所有者（2名）へのヒアリング調査	【第1回ひやーし景観まちづくり協議会】 ・委員紹介 ・ひやーしの分布と分類結果について ・ひやーし所有者へのヒアリング調査結果について ・意見交換 【事務局協議（3者）】 ・第1回協議会の議事内容確認 ・第2回協議会の議題について ・今後のスケジュール確認 ・景観条例について	【ひやーし所有者（2名）へのヒアリング調査】 ・ひやーしの機能 ・ひやーしの歴史 ・ひやーしの維持管理の現状 ・ひやーしに対する認識 ・今後のひやーしの維持について ・その他
	11/6 平戸市武家屋敷居住者（2名）へのヒアリング調査	・古写真、絵図の収集	・武家屋敷の視察
	11/22 第2回ひやーし景観まちづくり協議会 事務局協議（2者） ひやーし所有者（1名）へのヒアリング調査（再） 平戸市武家屋敷居住者（1名）へのヒアリング調査（再） 平戸市在住者（1名）へのヒアリング調査	【第2回ひやーし景観まちづくり協議会】 ・継続のヒアリング調査結果について ・他地域の生垣と松浦ひやーしとの比較調査について ・意見交換 【事務局協議（2者）】 ・ひやーしの呼称について ・第2回協議会の議事内容確認 ・第3回協議会の議題について ・シンポジウムの調整	【ひやーし所有者（1名）へのヒアリング調査（再）】 ・ひやーしの呼称について 【平戸市在住者（1名）へのヒアリング調査】 ・ひやーしの呼称について ・生垣の機能について ・生垣の歴史について 【平戸市武家屋敷居住者（1名）へのヒアリング調査（再）】 ・ひやーしの呼称について ・生垣の機能について ・生垣の歴史について
	2/13 第3回ひやーし景観まちづくり協議会 第1回松浦市景観基本計画推進委員会 事務局協議（3者）	【第3回ひやーし景観まちづくり協議会】 ・今年度の調査結果まとめ報告 ・松浦市景観まちづくりシンポジウムについて ・今後の活動予定について 【事務局協議（3者）】 ・松浦市景観まちづくりシンポジウムについて	【第1回松浦市景観基本計画推進委員会】 ・課長挨拶 ・委員紹介・職員紹介 ・松浦市景観基本計画について ・第1～3回福島地域景観まちづくり協議会の報告 ・第1～3回ひやーし景観まちづくり協議会の報告 ・景観まちづくりに係る府内での取り組み ・景観条例について ・「松浦市景観まちづくりシンポジウム ～『ひやーし』の景観とまちづくりへの可能性～」について
	2/23 松浦市景観まちづくりシンポジウム 『「ひやーし」の景観とまちづくりへの可能性』	・文化庁技官による基調講演『魅力ある風景を未来に－「ひやーし」がある景観地－』 ・ひやーしに関する調査結果 ・パネルディスカッション	

→ひやーしの歴史や機能等を明らかにするためにヒアリング調査や文献調査を行った。またひやーし景観まちづくり協議会において調査結果の報告を行い、それらを踏まえたうえで協議会委員による協議・検討がなされた。

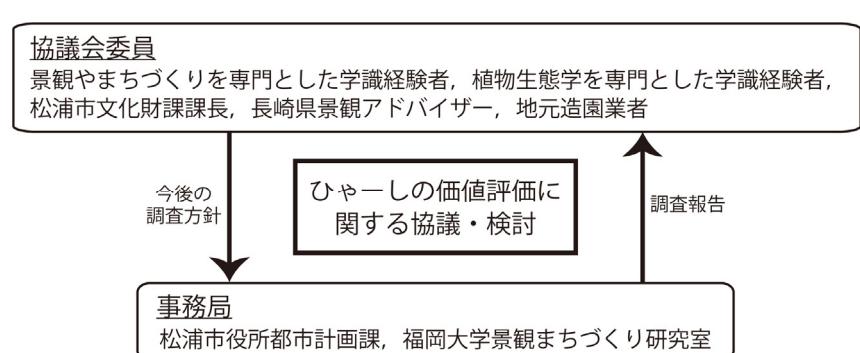
# 協議の様子

→ひやーしの価値評価を行ううえで、調査報告等を踏まえた協議やシンポジウムが実施された。



## →ひやーし景観まちづくり協議会

ひやーしをテーマとした景観まちづくりの推進にあたり「ひやーし景観まちづくり協議会」が設置された。ここでは、専門家によってひやーしの価値評価に関する協議・検討が行われた。  
平成25（2013）年10月に発足し、平成27（2015）年3月までに計4回開催された。



## →松浦市景観まちづくりシンポジウム

平成26（2014）年2月に松浦市景観まちづくりシンポジウム  
『「ひやーし」の景観とまちづくりへの可能性』が開催された。本シンポジウムでは、文化庁技官・鈴木地平氏による全国の文化的景観を事例とした基調講演やひやーしに関する調査結果報告が行われた。有識者によるパネルディスカッションでは、松浦市のひやーし景観まちづくりと地域活性化への可能性について議論された。

# 平成25年度 調査の様子

→基礎調査として実施したヒアリング調査ならびに文献史料調査の結果を基に、ひやーしの歴史や起源等について整理した。

ひやーし所有者へのヒアリング調査



→ヒアリング調査

ひやーしの歴史や起源等を把握するため、ヒアリング調査を実施した。本調査は、平成25（2013）年4月23日から平成26（2014）年1月8日までに、ひやーし所有者6名、松浦史料博物館学芸員1名、平戸市在住の歴史家3名、松浦住まいづくり研究会代表1名に対して計15回にわたり実施した。

絵図や古写真に関する調査



→文献史料調査

松浦史料博物館学芸員や平戸市在住の歴史家から古写真や絵図等を収集し、それらを用いてひやーしの歴史や起源、変容過程を分析した。

## ヒアリング調査結果　—歴史について—

「寺子屋だった地に武家の分家として移り  
大正5年ごろに生垣としてマキの木を植えた」  
(所有者B氏／90歳男性)

「自宅周辺のひやーしは生まれた頃（大正12年）  
には既に存在していた」  
(所有者B氏、E氏／ともに90歳男性)

▶ 大正時代にはひやーしが存在していた

「松浦同様、平戸にもイヌマキの生垣が多い」  
「平戸藩は規律が厳しく、百姓は華美な生垣を  
持つことができなかった」  
「江戸時代にひやーしのような生垣を造るとしたら  
武家や庄屋等の裕福な階級であっただろう」  
(松浦史料博物館学芸員C氏)

▶ ひやーしの起源は平戸藩の武家文化に  
影響を受けたものではないか

五十石以上の侍は城下に住居させ、屋敷も  
与えられた。(中略)地方に居住する侍を郷士と称し家  
禄を受け奉公しながら農耕に従事した。  
(『松浦市史』より引用)

# 昭和30年代の平戸市内で撮られた写真

(写真提供) 平戸市在住〇氏



→赤枠で記しているところにひやーしのような生垣が写っており、この時代には既に生垣を剪定する文化があることが分かる。

## 「亀岡と平戸年中行事絵巻」例祭御幸行列図（明治期に描かれた絵図）



→江戸時代の平戸城下の様子を表しており「マキガキ」と記された生垣が描かれている。

# 併設物の構成要素による分類

→松浦住まいづくり研究会の研究成果を基に分類を行った結果、半数以上が「生垣と石垣」であった。

分類	住所	剪定作業者	剪定頻度	剪定時期	家屋建設年	庭建設年	ひやーしの高さ(m)	ひやーしの周長(m)	ひやーしの幅(m)	併設物の高さ(m)
A	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年1回	秋	築100年	築100年	5.0	50.0	1.5	0.4
A	松浦市 御厨町 西木場免				昭和22年	昭和22年	3.5	69.0	1.0	-
A	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年2回	春秋	昭和47年	昭和53年	3.3	105.9	1.0	-
A	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	10月	大正7年	築100年	2.5	107.4	0.8	-
A	松浦市 御厨町 前田免	自分	年1回	秋	昭和47年	築100年	4.3	198.0	1.8	-
A	松浦市 御厨町 西田免	業者	年1回	正月前			2.9	64.5	0.9	0.6
A	松浦市 志佐町 里免	自分	年2回	5月と12月	平成6~7年	築60年	2.1~2.2	37.2	1.1	-
A	松浦市 志佐町 里免	自分	年1回	8月	築1年	築70年	2.2	50.8	1.1~1.5	-
A	松浦市 御厨町 板橋免				築10年	築60年	5.0~6.0	69.8	1.5	1.0
A	松浦市 調川町 中免	自分	年1回	10月頃	昭和21年	昭和25年	1.6~4.1	113.7	0.6~1.1	-
A	松浦市 調川町 松山田免						1.4~3.1	90.0	0.6~1.2	0.2~2.6
A	松浦市 御厨町 郭公尾免		年2回		築40年	築40年	1.4~3.3	109.5	1.5~	-
A	松浦市 今福町 東免	自分	定期的		(移築後)40年	築60~70年	3.2	25.9	0.9~1.7	-
A	松浦市 御厨町 普住免				築200年	築200年位	6.7	47.2	1.9	-
A	松浦市 御厨町 川内免				昭和25年	築50~60年位	3.0~4.3	96.5	0.8~2.0	0.7
A	松浦市 御厨町 川内免				築50年位	築50年位	3.7	13.6	1.5	-
A	松浦市 志佐町 栢木免				昭和20年改築		1.2~3.5	105.0	1.0~2.1	0.5
B	松浦市 星鹿町 下田免	自分	年1~2回	正月とお盆前	昭和52年	昭和47年	2.5	50.0	1.5	0.5
B	松浦市 星鹿町 下田免	自分	4年に1回		明治35年	明治35年	5.5	20.0	1.0	2.8
B	松浦市 星鹿町 下田免	業者	年1回	11月頃	築150年	昭和25年	5.5	20.0	1.0	1.7
B	松浦市 御厨町 西木場免	自分	年2回	春と秋	江戸時代	江戸時代	5.0	40.0	3.0	3.0
B	松浦市 御厨町 西木場免	自分	2年に1回	正月前	築100年	築100年	4.7	23.0	0.8~1.3	2.0
B	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年1回		大正6年	築80~90年	3.9	35.0	2.0	1.0
B	松浦市 御厨町 西木場免	業者	年2回	4月と10月	昭和37年	昭和37年	2.4	79.0	1.3	0.9
B	松浦市 御厨町 大崎免	自分	年2回	6~7月と11月	昭和7年	昭和7年	4.7	50.0	1.2	2.1
B	松浦市 星鹿町 岳崎免	業者	年2回	盆と正月前	昭和24年	昭和24年	3.4	38.0	1.3	1.3
B	松浦市 星鹿町 岳崎免	自分	年1回	11月10~20日頃	昭和22年	昭和22年	5.4	80.0	1.0	-
B	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	10月	築100年	築100年	2.5	66.6	2.0	1.0
B	松浦市 御厨町 高野免	業者	年1回	11~12月	築250年	築250年	4.0	77.0	1.0	1.8
B	松浦市 御厨町 前田免	自分	年1回	11月頃	昭和30年	昭和46年	2.6	40.0	0.7	1.0
B	松浦市 御厨町 前田免	業者	年1回	お盆前	築120年	築120年	6.0	66.0	2.5	1.0
B	松浦市 御厨町 小船免	業者	年2回		築100年	築100年	3.0~6.0		0.6~0.8	-
B	松浦市 御厨町 前田免	業者	年1回	正月前	昭和16年		5.0	69.6	3.0	2.5
B	松浦市 志佐町 里免	業者			昭和45年(母屋)		1.5~2.0	73.3	0.8~1.0	-
B	松浦市 志佐町 高野免						3.2	53.0	1.8	1.6
B	松浦市 志佐町 高野免	業者	2回		明治24年	第20年	1.0~2.7	28.7	1.0~1.2	-
B	松浦市 志佐町 池成免	業者	2回	正月前と正月	築53年	江戸時代	1.5~4.3	32.3	0.5~2.5	-
B	松浦市 志佐町 池成免		2回		昭和23年		2.4~2.7	37.9	0.8~1.3	1.0~2.0
B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年1~2回				2.9	31.5	1.2	-
B	松浦市 志佐町 池成免	自分	年2回	6月と11月	築80年	築20~30年	1.8~4.2	165.0	1.8	-
B	松浦市 志佐町 笛吹免			近年やっていない	築150年		2.9	38.7	1.1	3.6
B	松浦市 志佐町 笛吹免						2.6	58.8	1.2	-
B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	盆前か正月どちらか	昭和17年	昭和17年	2.5~3.0	171.0	0.6~0.7	0.0~1.6
B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	7月頃(盆前)	大正6年	大正10年	1.2~1.9	55.8	0.8~1.0	1.2~1.4
B	松浦市 志佐町 西山免	自分	年1回	7月中旬	築50年	築100年	1.9~3.5	68.6	0.7~1.1	0.6~0.9
B	松浦市 御厨町 板橋免	自分	年1回		築80年	築80年	1.6~3.0	65.8	0.5~1.0	1.0~1.9
B	松浦市 御厨町 板橋免	自分	2年に1回		築200年	明治25年	2.7~7.0	58.5	1.2~1.9	1.0
B	松浦市 調川町 中免	自分	年1回	7月頃	築100年	築20年	2.6~4.4	52.8	0.6~0.9	0.3~1.05
B	松浦市 調川町 松山田免	自分	年2回	盆と正月前	築35~40年	築35~40年	1.2~2.0	48.3	0.8~0.9	1.2~1.9
B	松浦市 御厨町 郭公尾免	年1回	6~8月頃	築60年	築60年	2.4~3.4	73.8	1.6	1.0~2.2	-
B	松浦市 調川町 松山田免	自分	年1回	10~11月頃	昭和3年	昭和3年	3.4	40.4	1.8	0.6
B	松浦市 調川町 松山田免	家族			昭和48年	明治時代頃	3.7	66.5	1.2	1.8
B	松浦市 今福町 東免	自分	年2回	盆と正月前	築100年	築40年	2.1~3.1	55.3	0.7~1.0	-
B	松浦市 今福町 木場免	業者	年2回	盆と正月前	築130年	築130年	1.6~1.7	47.3	1.1~2.1	1.1
B	松浦市 御厨町 川内免				昭和22年	昭和22年以前	5.7	36.5	2.4~3.0	0.7
B	松浦市 志佐町 栢木免				第30年	築100年以上	3.6~5.4	41.3	1.0~1.2	1.6
C	松浦市 星鹿町 下田免	自分	年1回	10月頃	昭和49年	昭和49年	2.0~3.0	104	1.0	0.2~0.7
C	松浦市 御厨町 前田免						50.4		2.2	1.2
C	松浦市 御厨町 西田免	業者	1年	11月	第10年	第10年	1.0	38.5	2.0	-
C	松浦市 志佐町 白近免				第14年	第20年	2.0~3.1	102.3	0.7~0.9	-



生垣とブロック塀  
60件中4件

# 平成26年度 調査の様子

→ひやーし所有者に対する全戸調査から、ひやーしの現状と実態ならびに経年変化に関する把握を試みた。

ひやーし所有者へのヒアリング調査



→ひやーし所有者へのヒアリング調査

本調査は平成26（2014）年10月31日から同年11月22日までに実施した。調査対象は、松浦住まいづくり研究会や松浦市役所が行った先行調査で対象となった94軒から、世帯主死亡や転出等により調査不可能な9軒を除く85軒とした。その結果、被験者不在の場合を除き61軒的回答が得られた。

ひやーし実測調査



→ひやーし実測調査

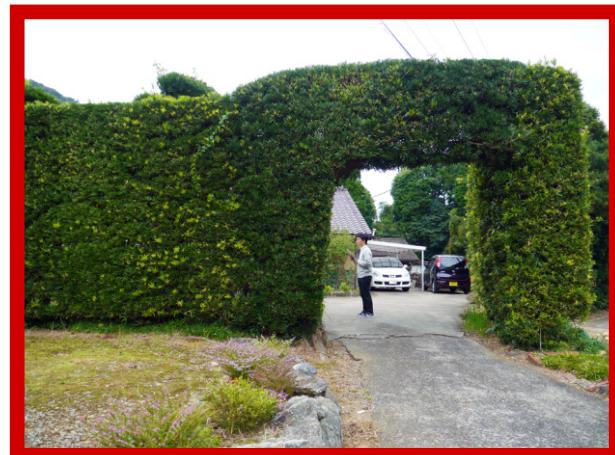
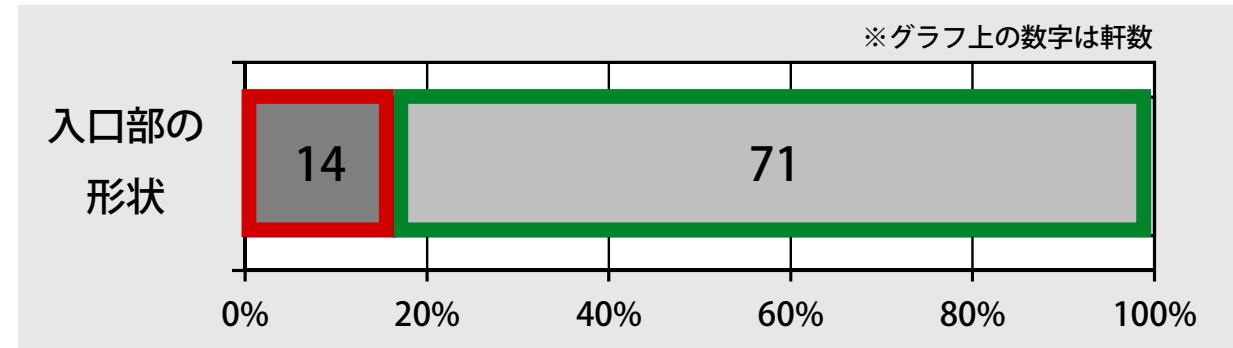
ヒアリング調査同様、85軒を対象に調査を行った。調査項目は下記に示すとおりである。

## 調査票に記した内容

ひやーしの最大樹高/最低樹高/周長/葉張り/  
ひやーしの位置や特徴/石垣の有無/石垣の高さ/  
ブロック塀の有無/ブロック塀の高さ/  
石垣やブロック塀の位置/敷地内の特徴

# 入口部の形状

→トンネル状に繋がっていない71軒（84%）には鉤形状や円柱状等に剪定されているものも見受けられた。



繫がっている例 16%

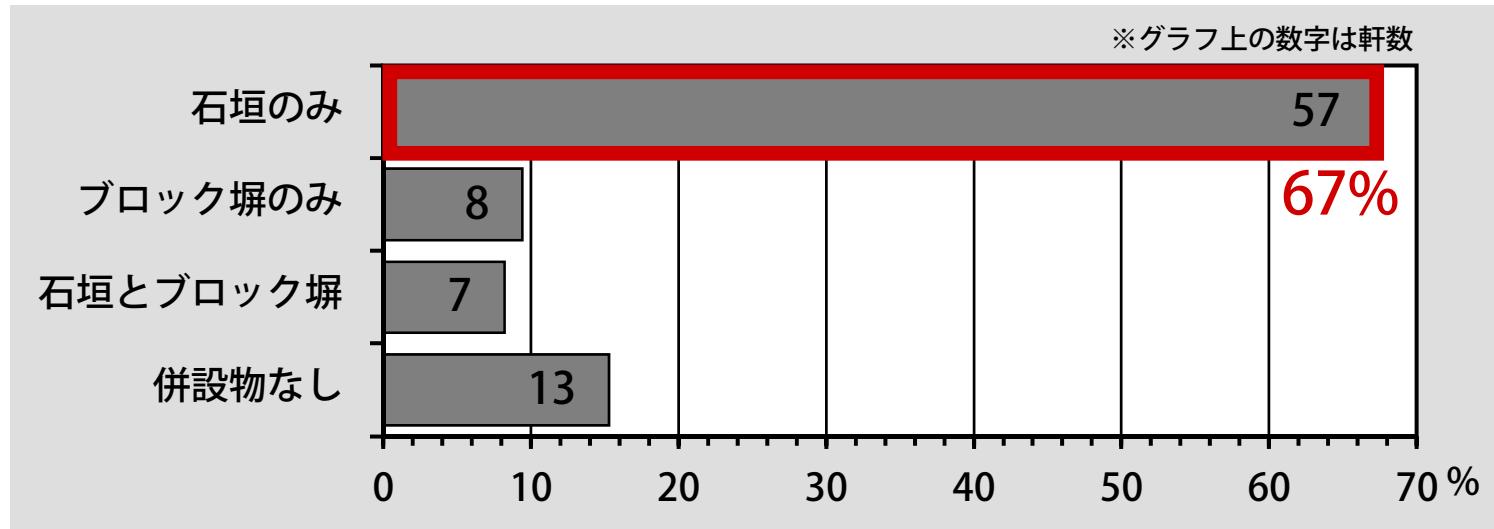


繫がっていない例 84%



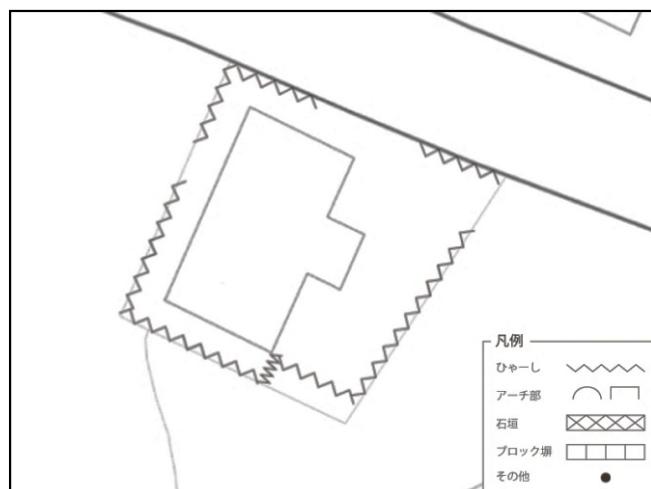
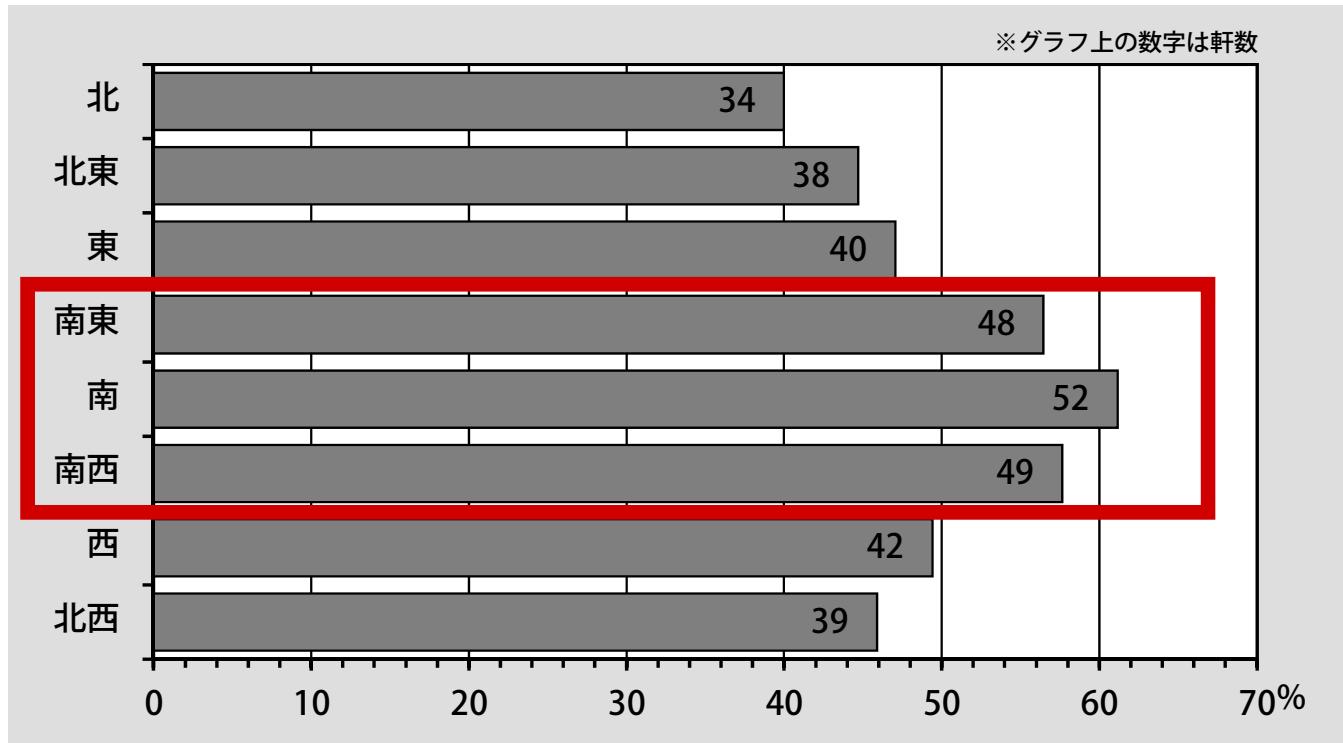
## 併設物の構成要素

→石垣のみが57軒（67%）であり、石垣と取り合わされているものが大多数を占めていた。

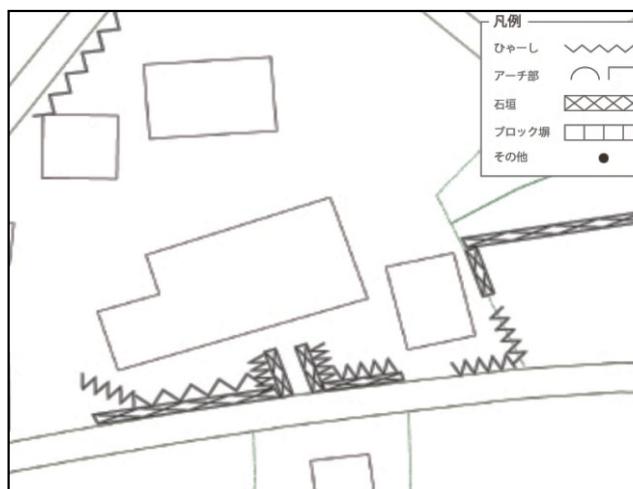


# ひやーしと住居の位置関係

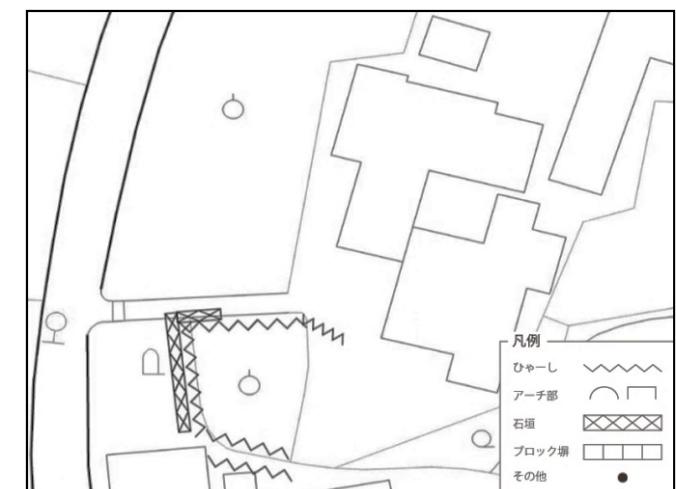
→南が52軒（61%）と最も多く、南西が49軒（58%）、南東が48軒（56%）であった。また位置関係については一例を下図に示す。



敷地全体を囲んでいる例



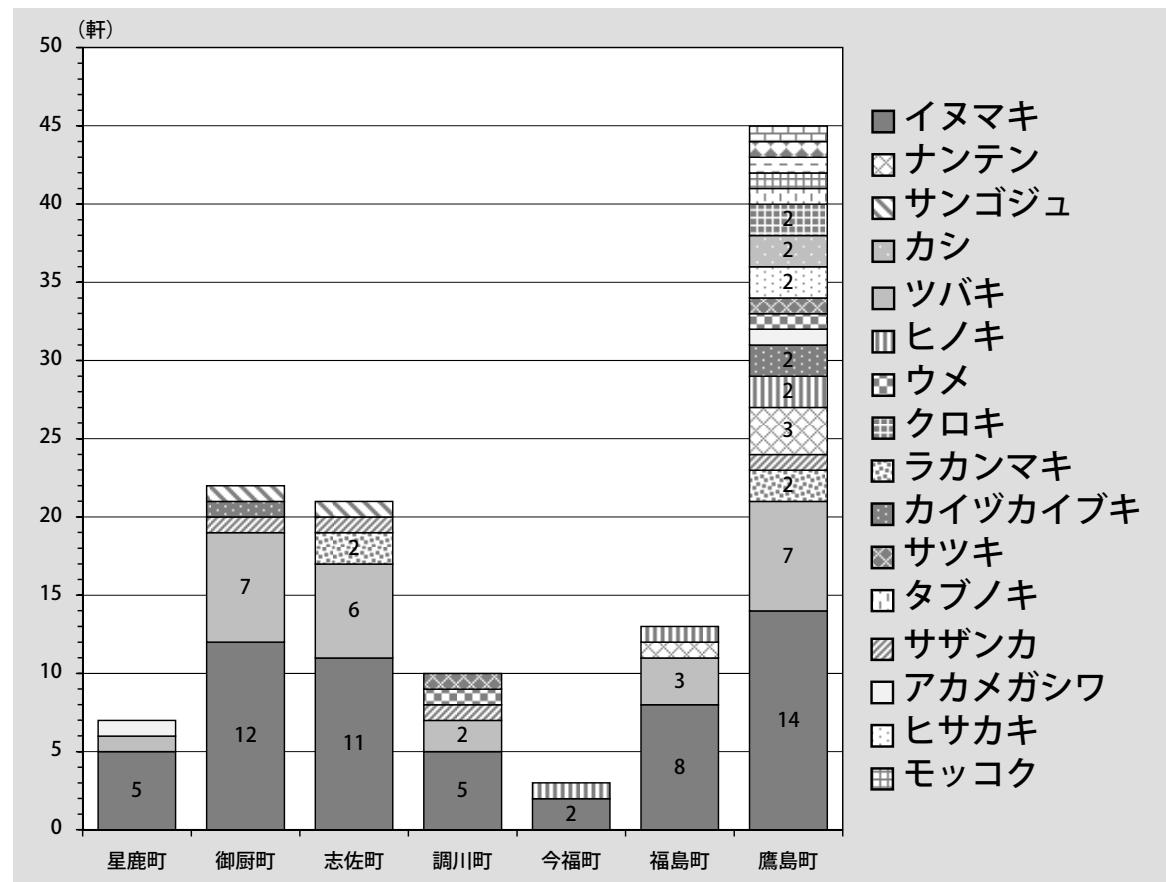
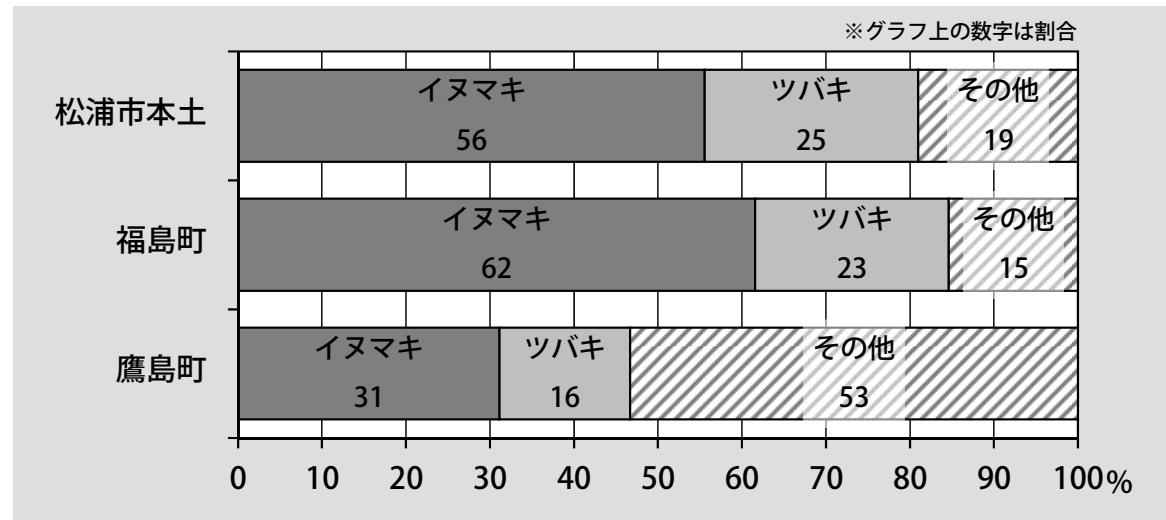
門のように配置されている例



煙周辺に植えられている例

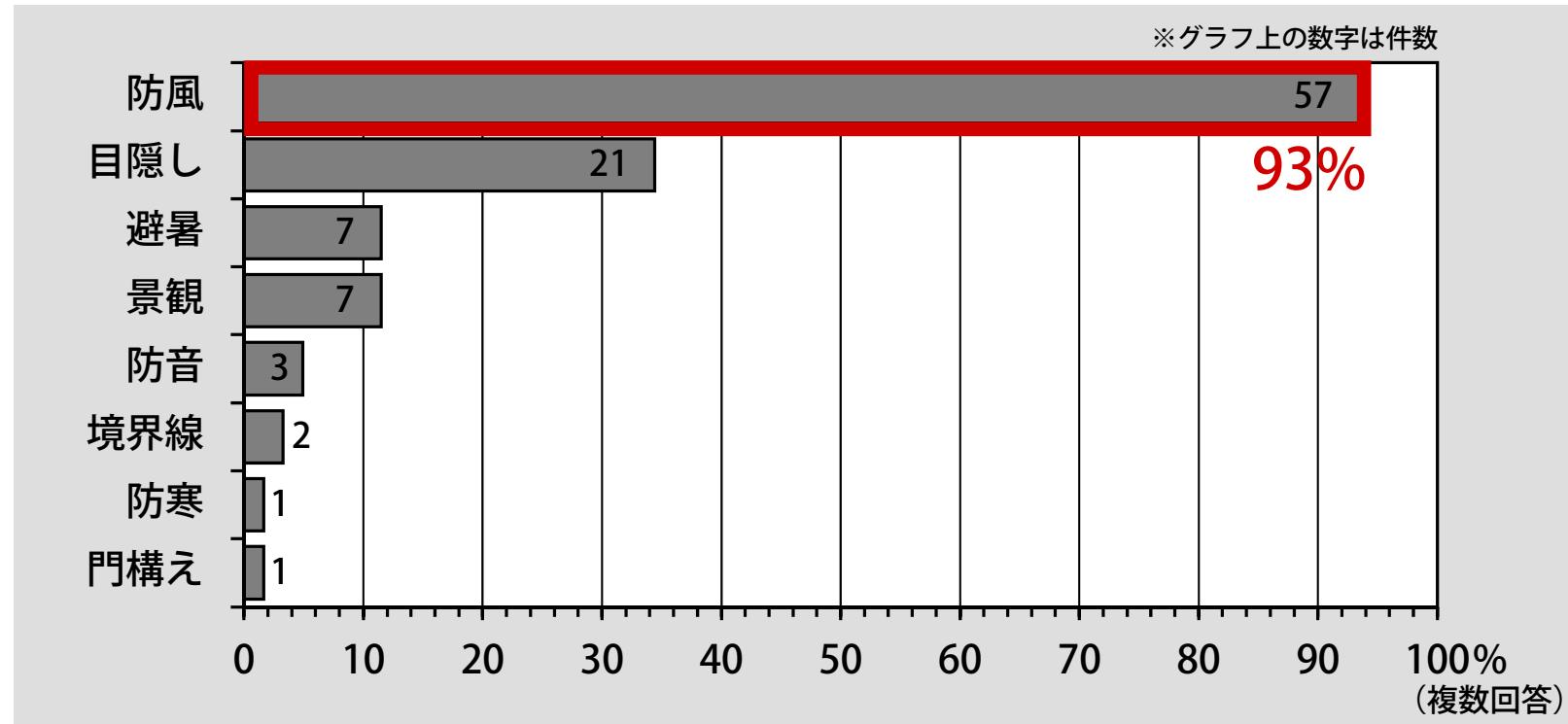
# ひやーしの地域別構成樹種

→松浦市本土及び福島町ではイヌマキが半数以上を占め、鷹島町ではイヌマキとツバキ以外に16種が確認された。



# ひやーしの機能

→被験者の93%が防風と回答した他、子どもの遊び場や食材・燃料としての利用等の副次的な用途も挙げられた。



※ ( ) 内の数字は件数

## 機能以外の用途

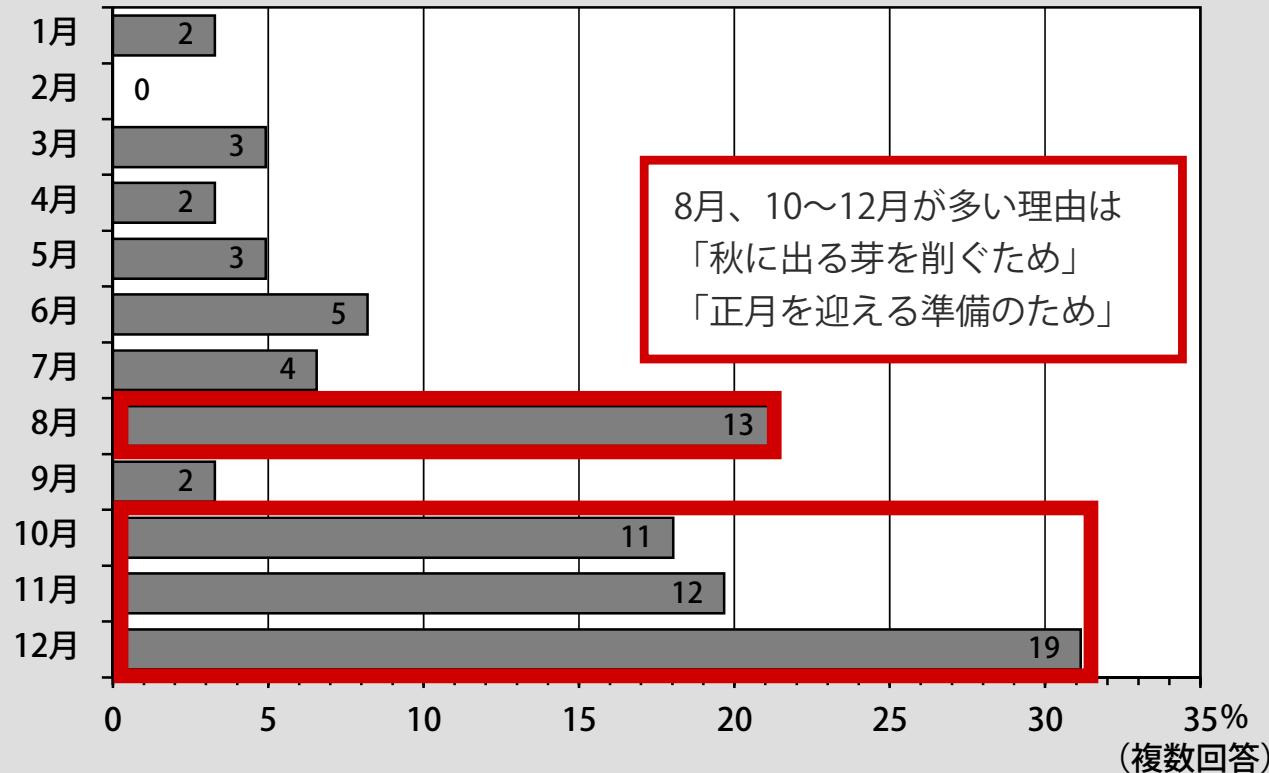
木登り (9) / 実を拾う (6) / かくれんぼ (2) / ブランコ (2) / 飾り付け (2) /  
竹を通してそこで昼寝 (1) / 鉄砲遊び (1)

「木登りやかくれんぼ、ブランコ等の子どもの遊び場だった」  
「実を採取し食材や燃料として利用していた」等

# 剪定作業に係る現状

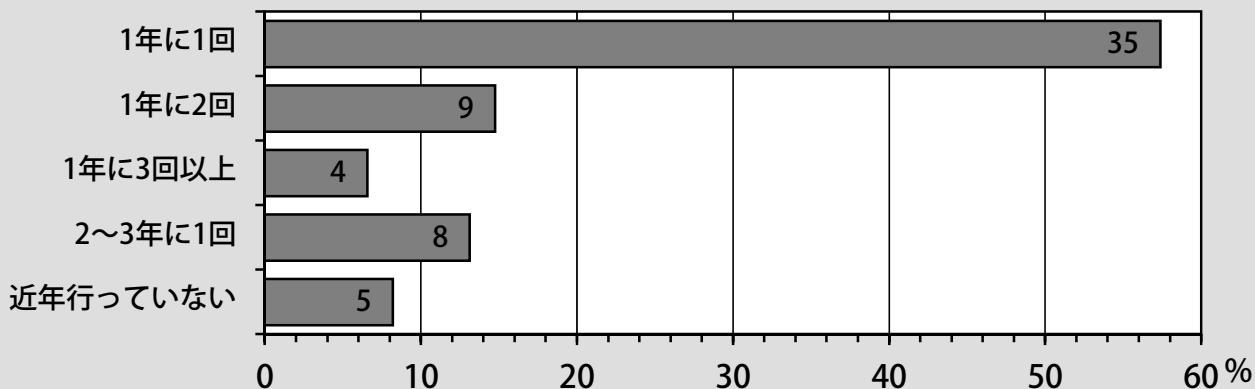
## 剪定時期

※グラフ上の数字は件数



## 剪定頻度

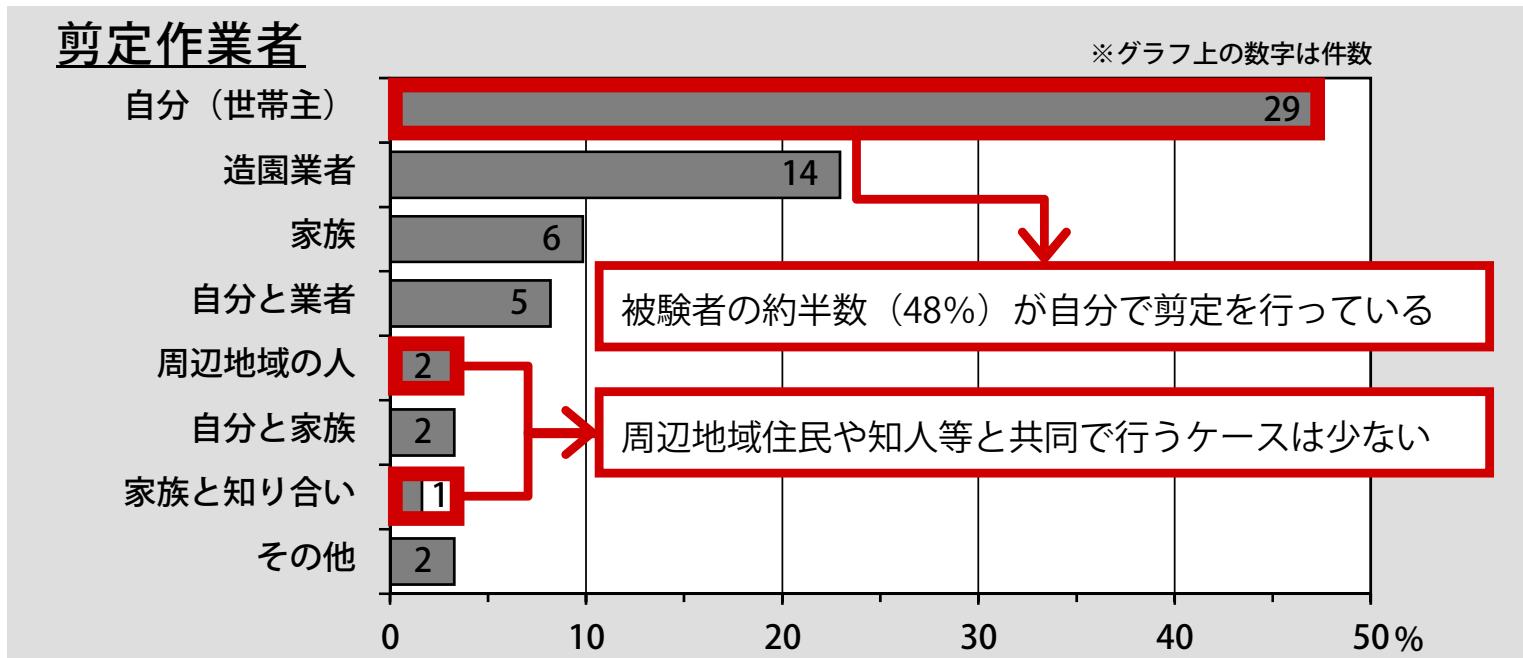
※グラフ上の数字は件数



# 剪定作業に係る現状

## 剪定作業者

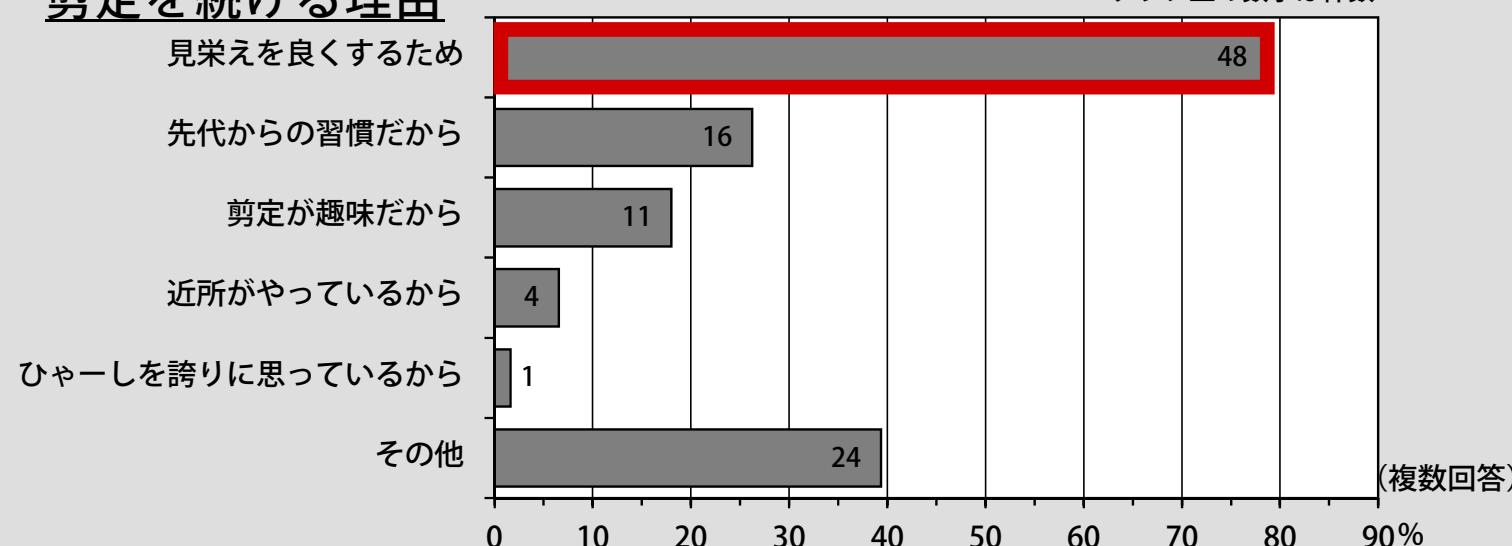
※グラフ上の数字は件数



- 「その他」には、シルバー人材センターに依頼していると答えた被験者も見られた。
- 「造園業者」「周辺地域の人」等の他人に依頼する際には、ひやーしの規模や枝葉の伸び具合によって被験者ごとにばらつきが見られるものの、人数は最大7人、費用は最大40万円を必要とすることが把握された。

## 剪定を続ける理由

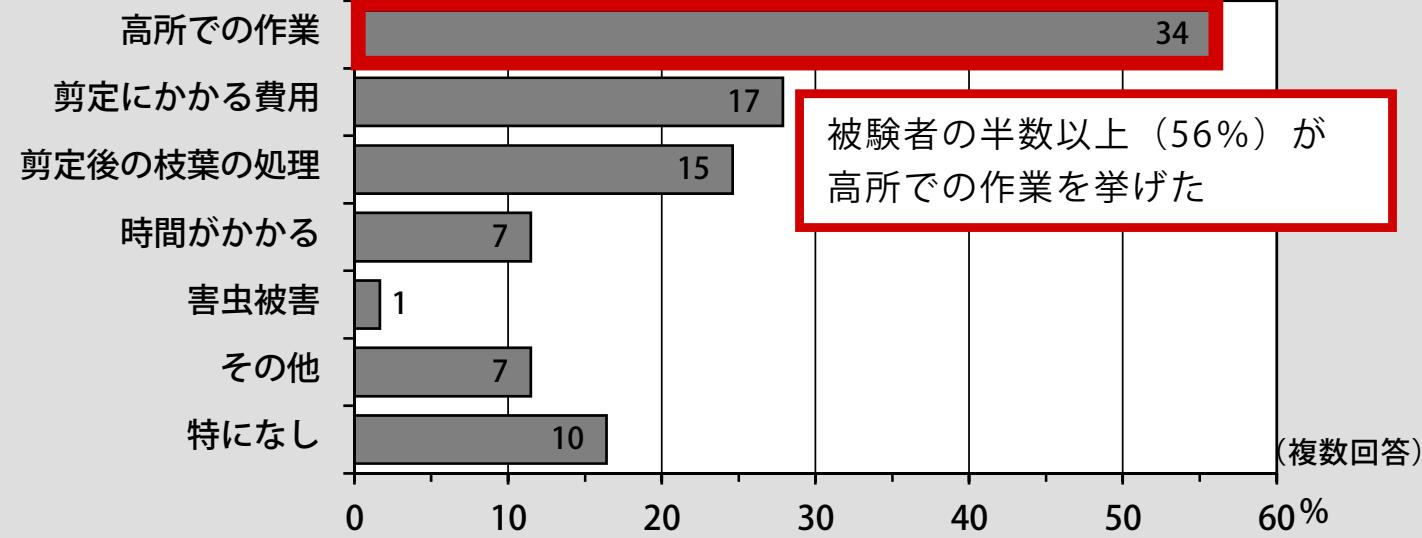
※グラフ上の数字は件数



# 維持管理上の問題点

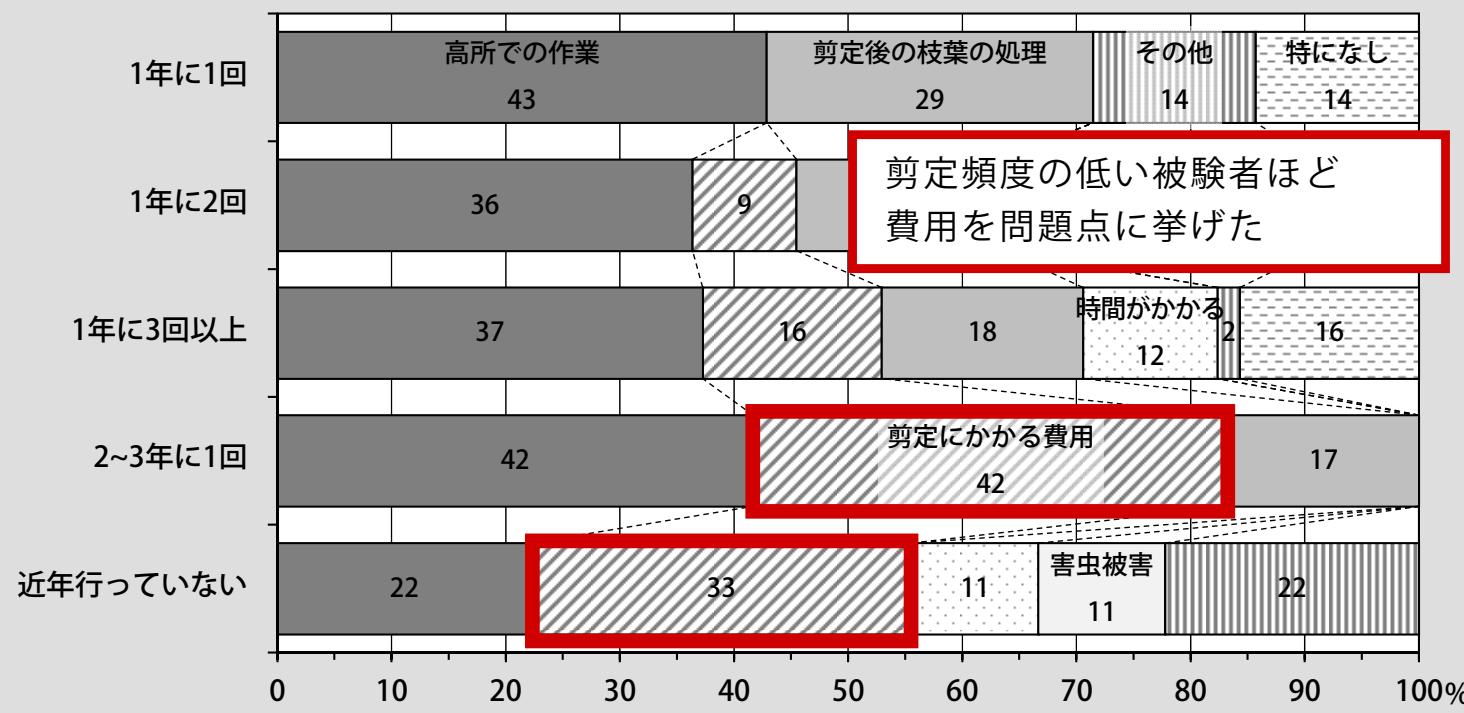
## 剪定における問題点

※グラフ上の数字は件数

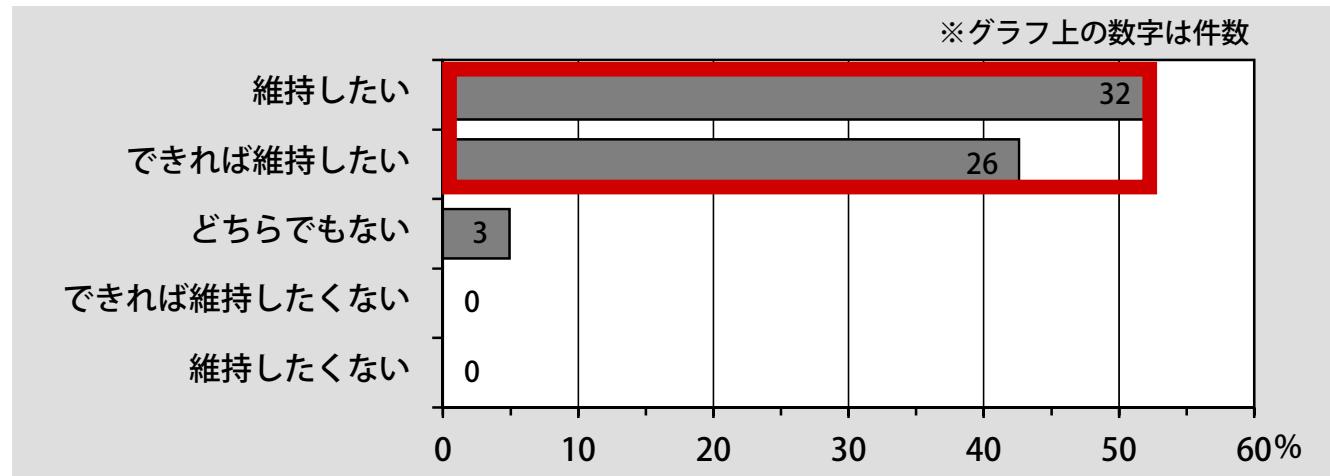


## 剪定頻度別にみる問題点

※グラフ上の数字は割合



# 継続的な維持管理に対する意志



- 被験者の大多数が継続的な維持管理に意欲的であった。
- 次世代への継承や維持管理費に対する不安の声も挙げられた。

※（ ）内の数字は件数

維持したい
防風等の機能を維持するため (11) /綺麗にしておきたい (9)
できる範囲で維持していきたい (5) /先代から受け継いだものだから (4)
次の代が受け継いでくれるか心配 (3) /石垣だけだと寂しいから (1)
周りからの反応を絶やしたくない (1) /剪定が楽しみだから (1)
石垣がダメにならないように (1) /来世に残したいから (1)
低くしてもなくしたくはない (1) /剪定後に何とも言えない気持ちよさがあるから (1)

できれば維持したい
できる範囲で維持していきたい (7) /次の代が受け継いでくれるか心配 (6)
防風等の機能を維持するため (5) /先代から受け継いだものだから (4)
綺麗にしておきたい (2) /枝が伸びると迷惑がかかる (2)
お金がかからなければ維持したい (2) /生垣が綺麗だから (1)
普通にあるものだから無いと落ち着かない (1) /綺麗になったとき気持ちがいい (1)
綺麗だと近所の人に褒められる (1)

どちらでもない
道沿いは枝が危険 (1) /できる範囲であれば続ける (1) /防風のため (1)

# 平成27年度 調査の様子

→ひやーし周辺における微気候観測調査より、ひやーしによってもたらされる温熱環境への影響について分析を行った。

微気候観測調査



→微気候観測調査

本調査は平成27（2015）年9月18日及び19日の9時から18時に行った。観測項目については、人体の熱収支に影響を与える代謝量、着衣量、気温、湿度、気流、熱放射の6要素のうち、ひやーしの有無によって改善されうる気温、湿度、気流、熱放射の4要素に着目して観測を行うこととした。

ヒアリング調査

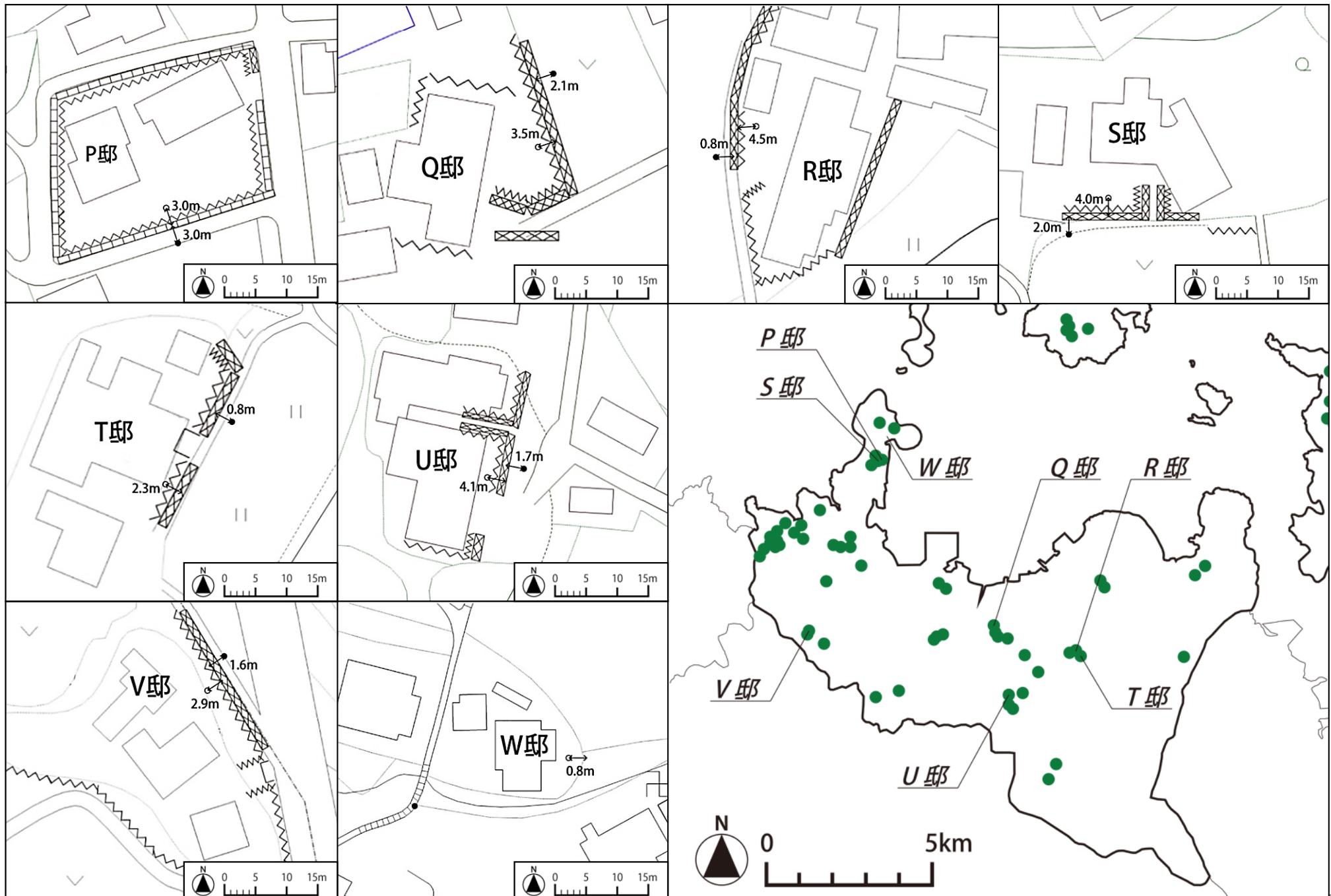


→ヒアリング調査

ひやーしの温熱環境改善効果に対する居住者の認識について把握するためにヒアリング調査を実施した。調査対象は上記調査対象（後述）と同様である。

## 微気候観測調査対象

→地理的条件や住居に対するひやーしの配置状況、ひやーしの樹高・葉張りの差異により条件の異なる7軒を選定した。  
加えてそれらの対比としてひやーしが設置されていない事例1軒に対しても同様の調査を行った。



# 観測機器



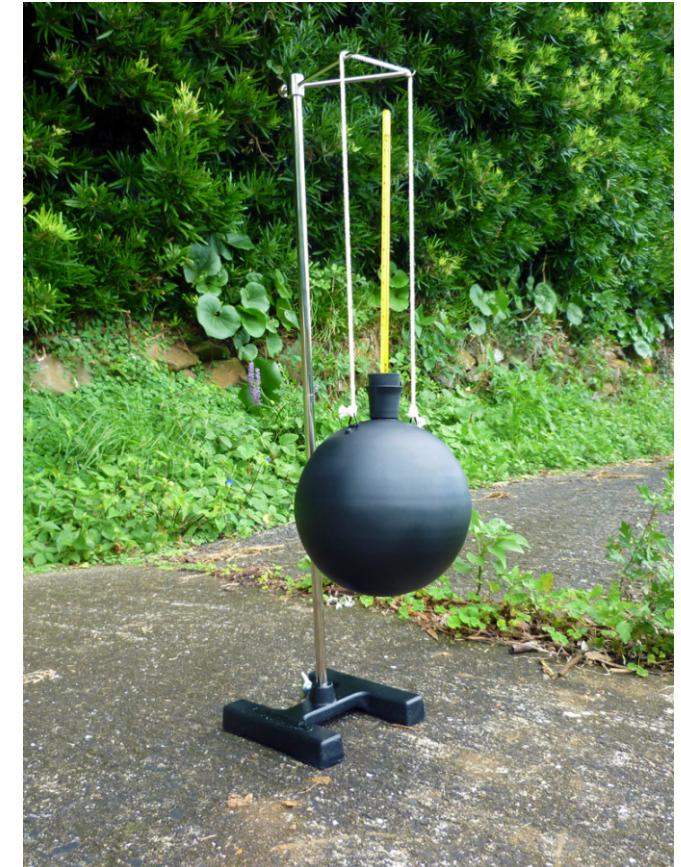
電動式通風乾湿計

- ・乾球温度[°C]
- ・湿球温度[°C]



デジタルハンド風向風速計

- ・平均風速[m/s]
- ・風向



グローブ温度計

- ・グローブ温度[°C]

□ ひやーしを境として敷地内外にそれぞれ1地点ずつ設置した。

□ 2班でそれぞれ調査対象を20分間隔で移動し観測を行った。

## 調査日の気象状況

【平成27年9月18日】

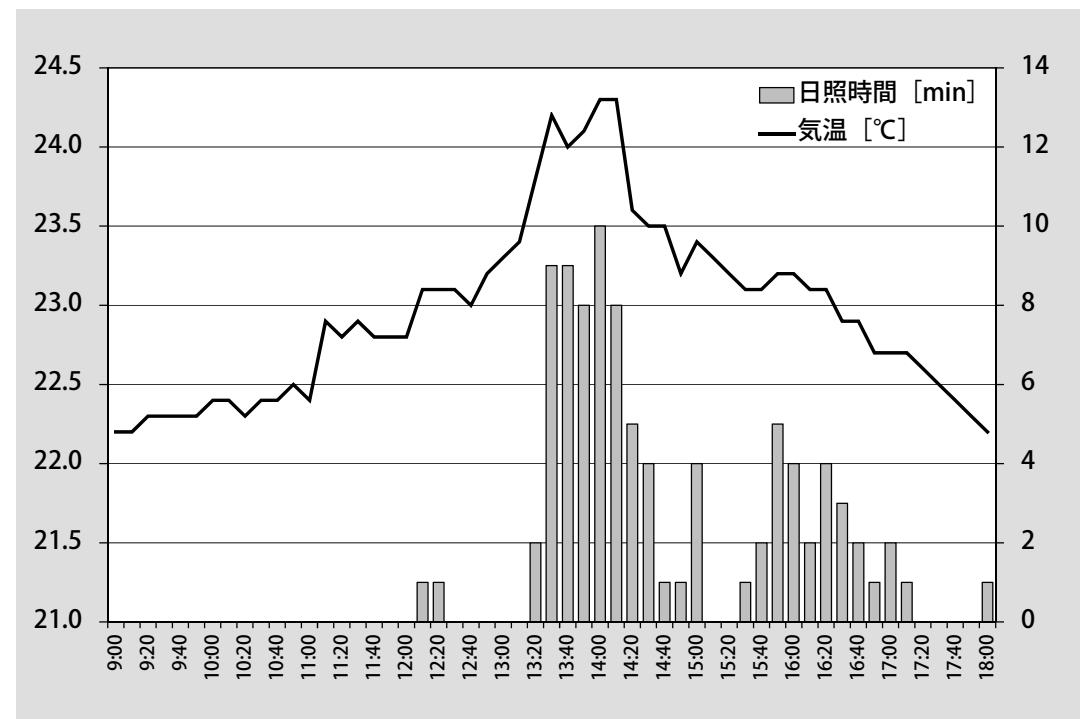
平均気温 23.0°C

最高気温 24.3°C

最低気温 22.2°C

平均風速 6.2m/s

最多風向 北北東



【平成27年9月19日】

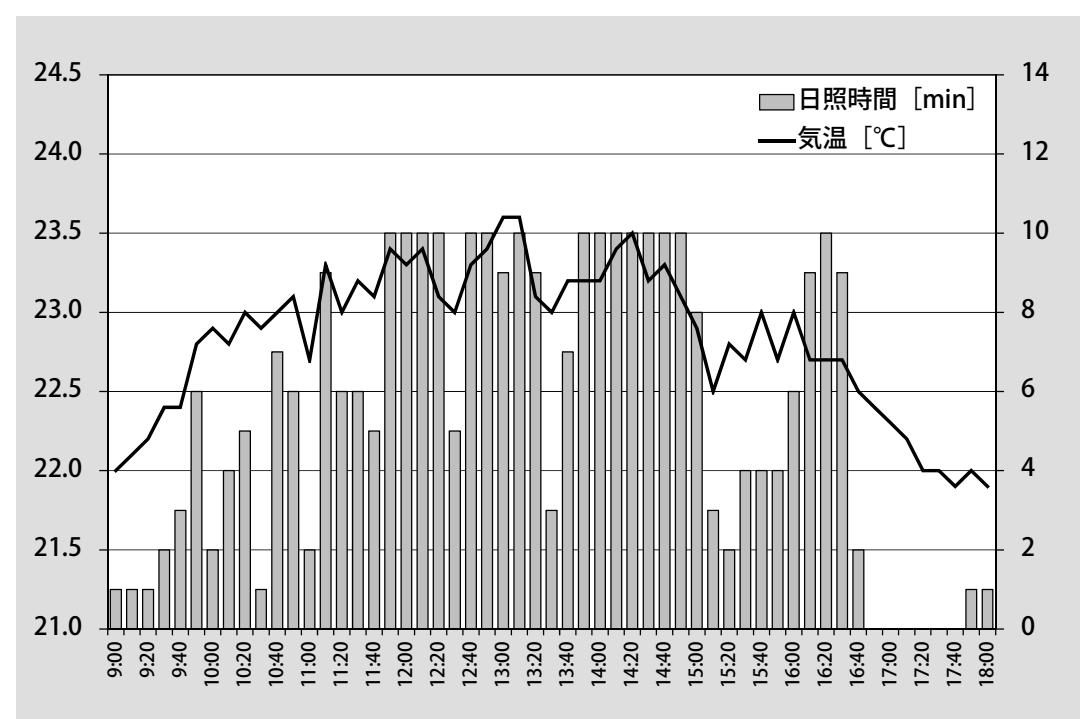
平均気温 22.8°C

最高気温 23.6°C

最低気温 21.9°C

平均風速 4.6m/s

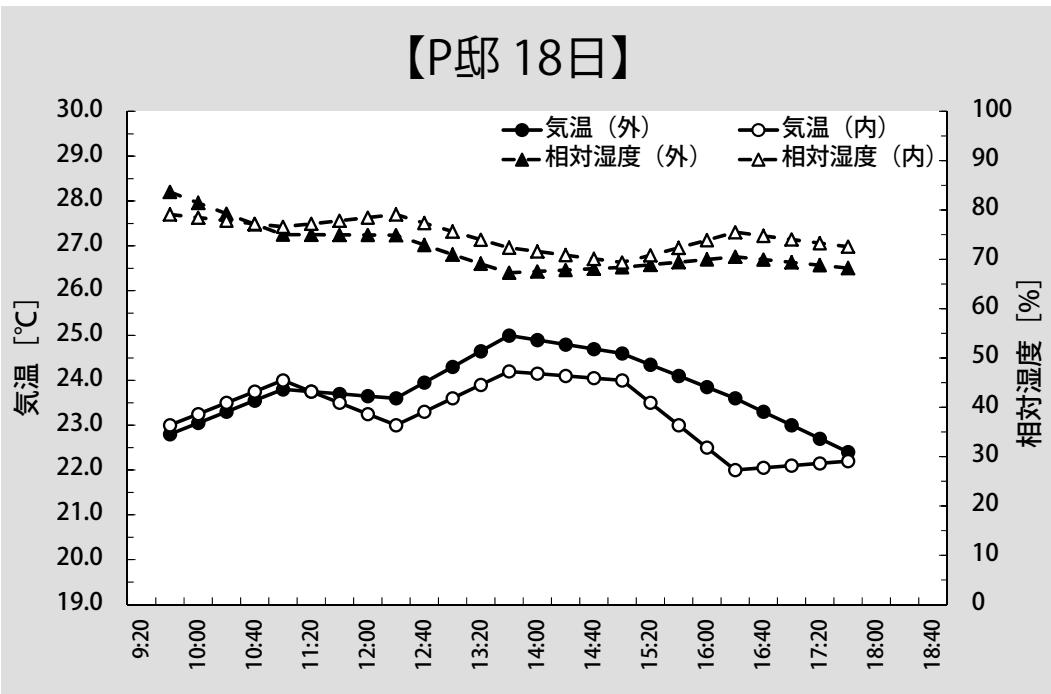
最多風向 北北東



# 気温の観測結果

→P邸及びS邸では、両日ともに敷地外に比べて敷地内における気温の方が常に低い推移にあった。

【P邸 18日】

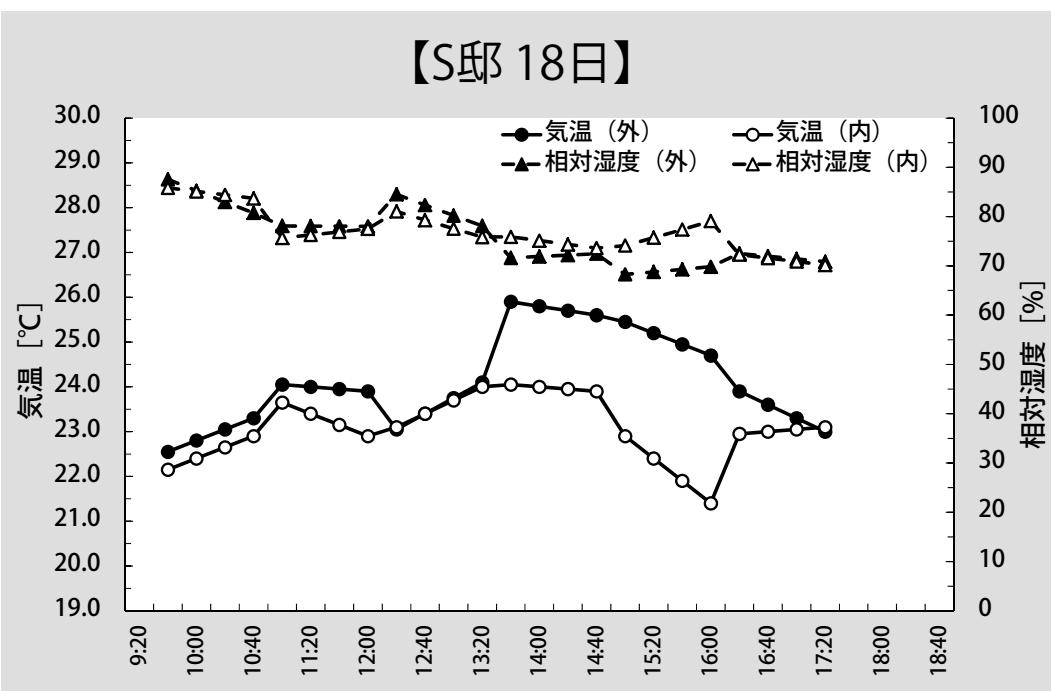


[外一内] の気温差

平均  $0.5^{\circ}\text{C}$

最高  $1.6^{\circ}\text{C}$

【S邸 18日】



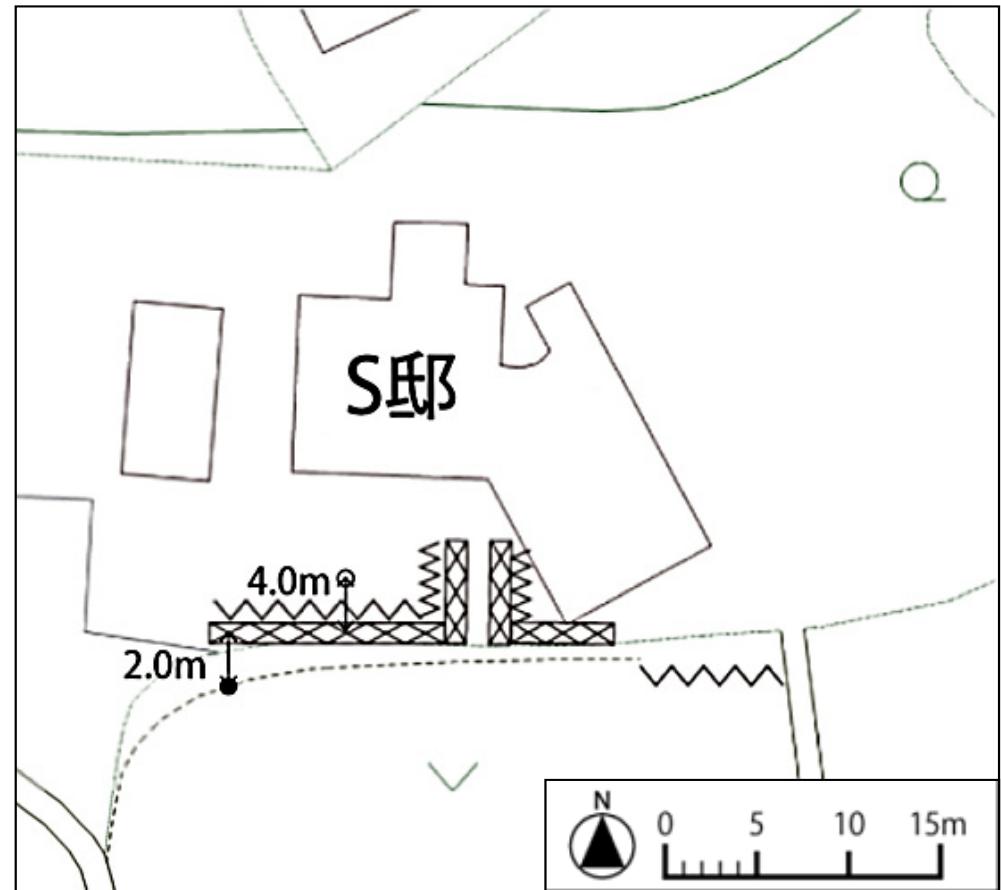
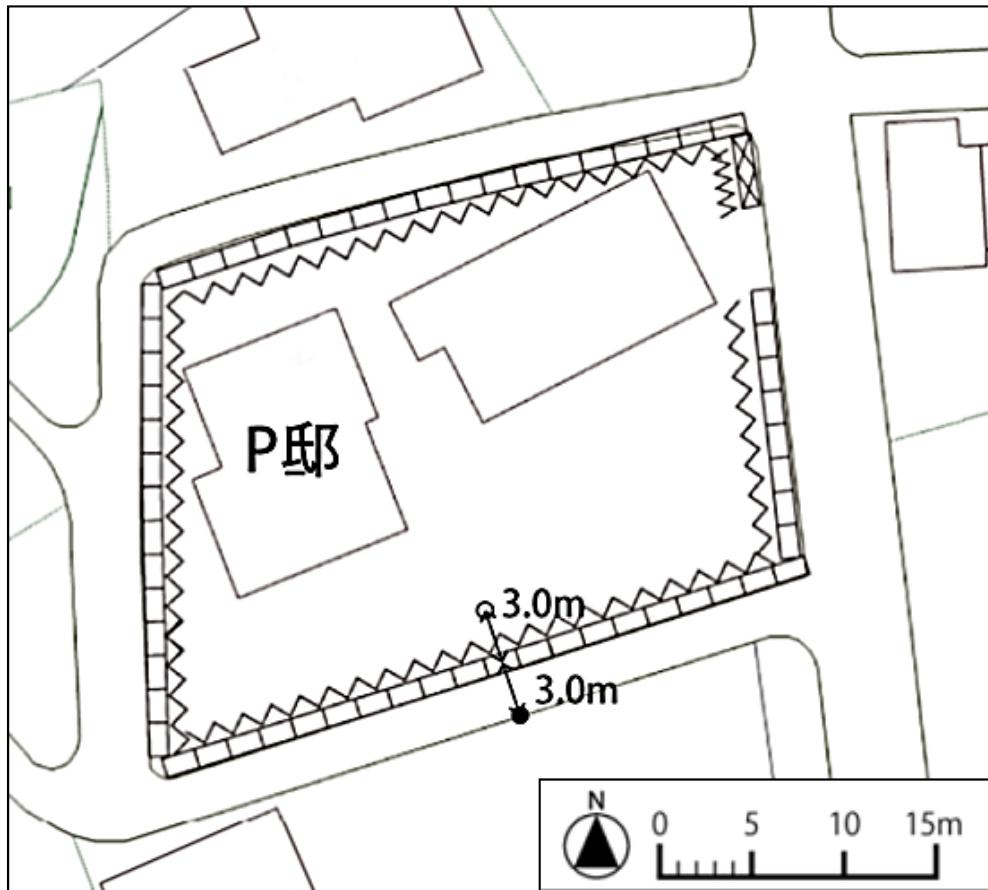
[外一内] の気温差

平均  $1.0^{\circ}\text{C}$

最高  $3.3^{\circ}\text{C}$

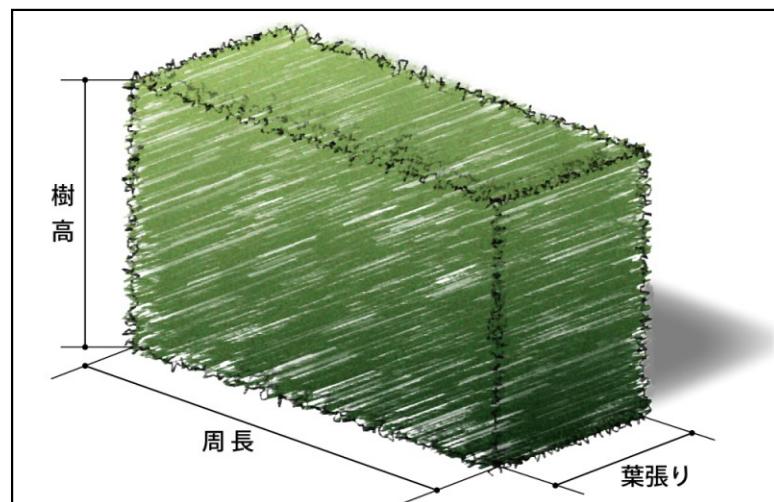
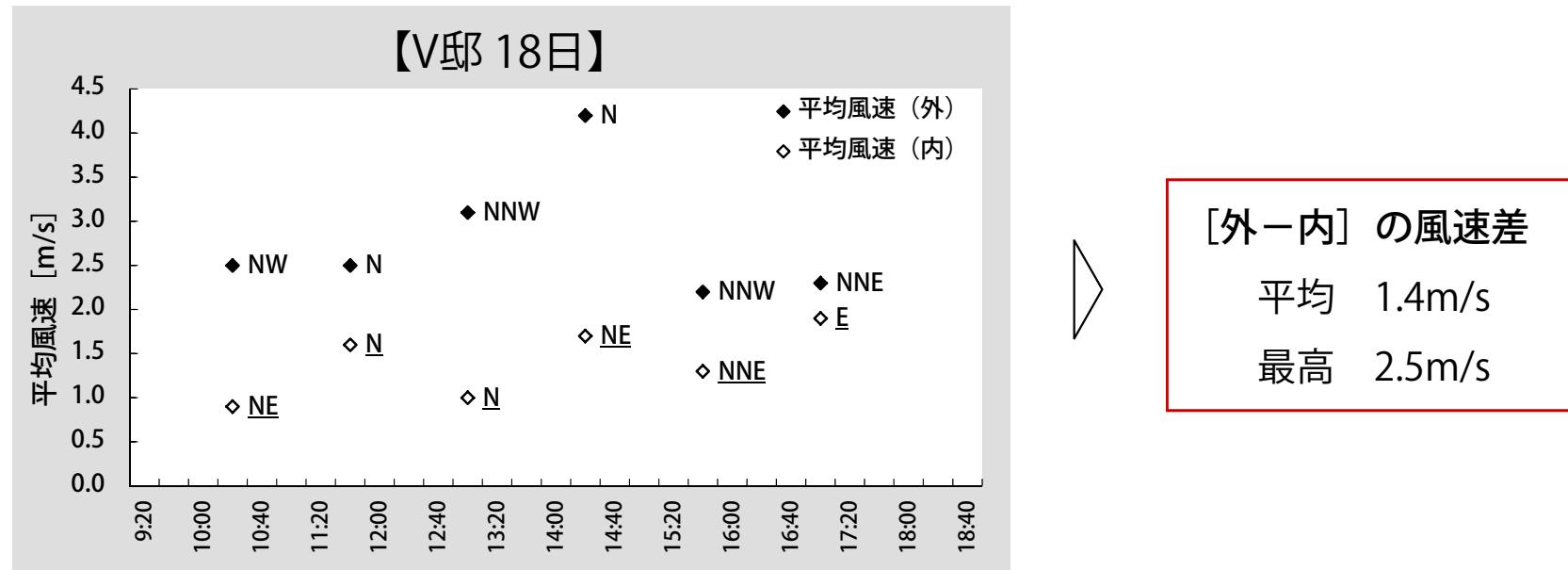
## 気温の観測結果

→観測地点がひやーしを境に南北に位置するという共通項があり、北に当たる敷地内に  
緑陰が出来やすいため、敷地内の気温上昇が抑えられたと考えられる。



# 平均風速の観測結果

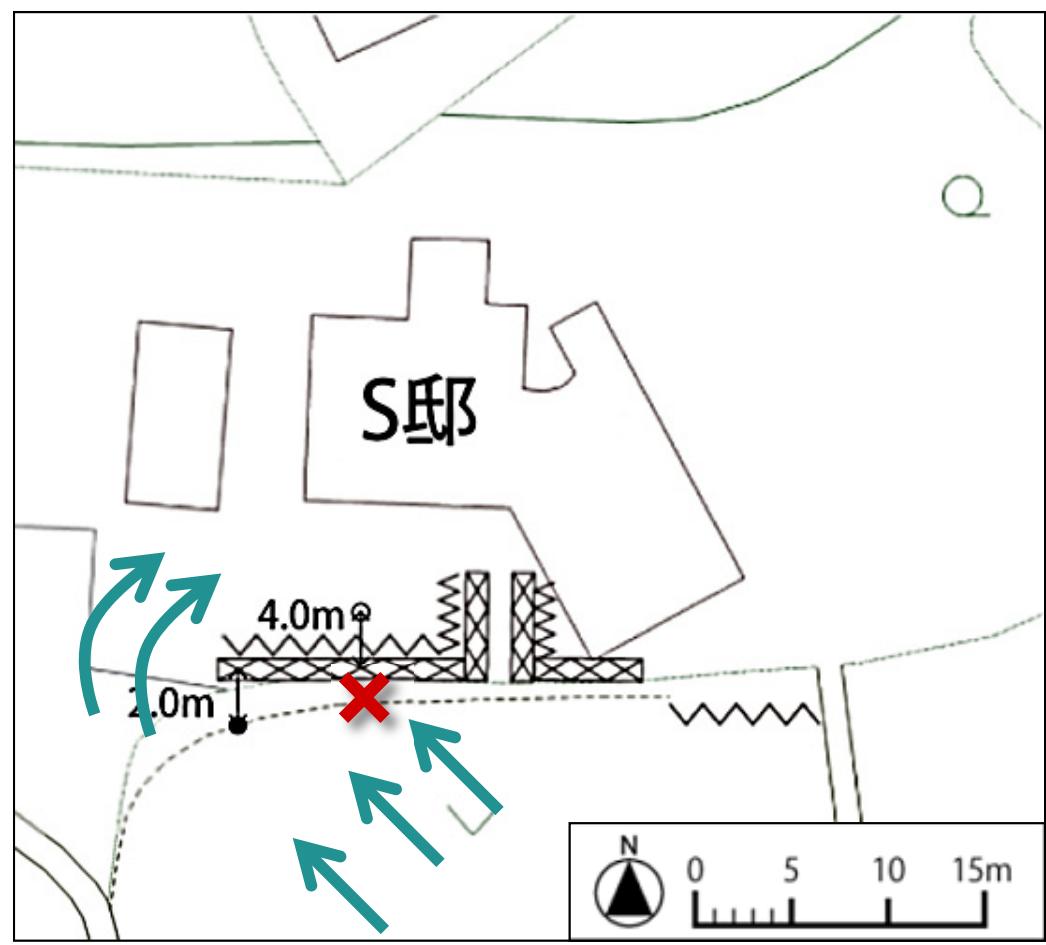
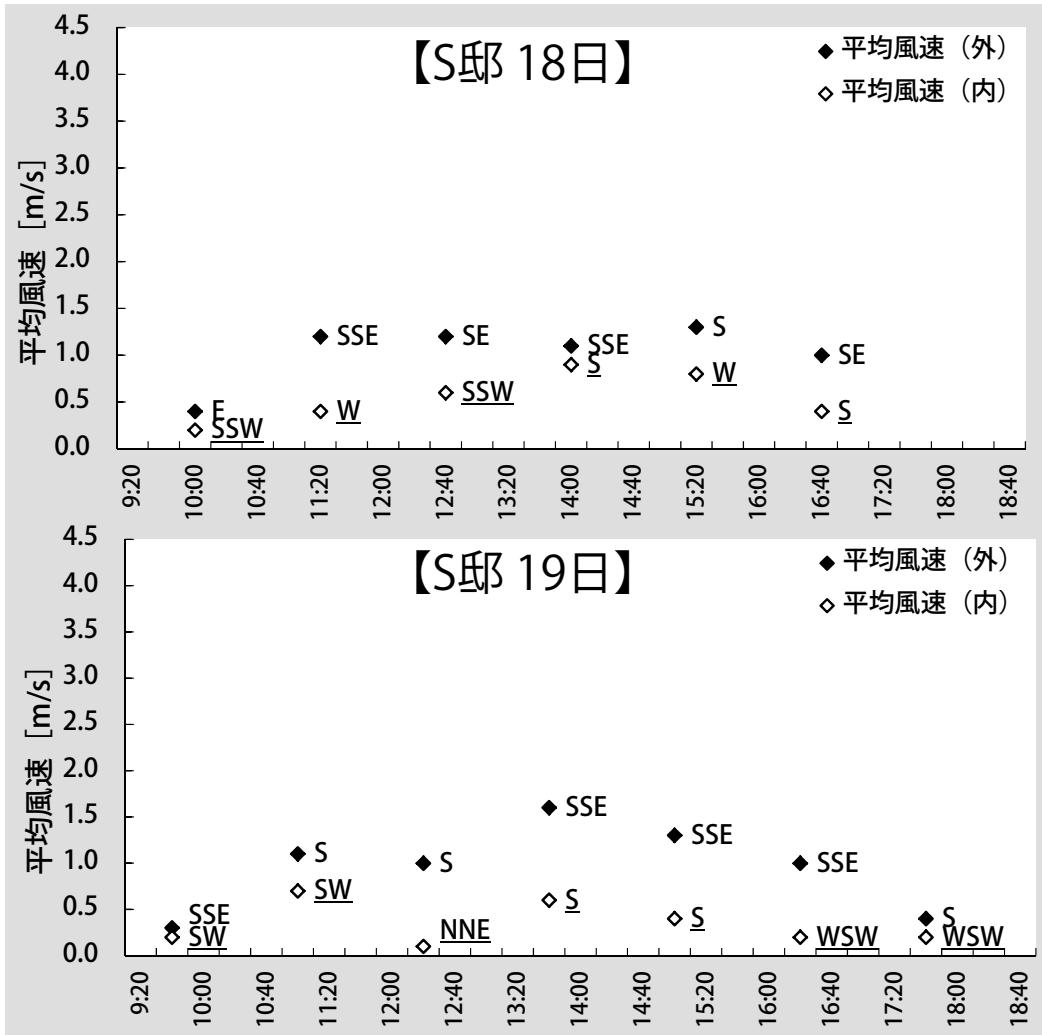
→ひやーしを有する対象では、敷地外に比べて敷地内における風速の方が概ね低い推移にあり、特にV邸ではその挙動が顕著であった。



観測対象	立地状況	標高[m]	最大樹高[m]	最大葉張り[m]
P邸	沿岸部	17.7	2.9	1.1
Q邸	内陸部	8.8	2.4	0.8
R邸	内陸部	127.4	5.5	0.9
S邸	沿岸部	19.6	7.0	1.2
T邸	内陸部	145.9	4.8	1.3
U邸	内陸部	110.7	2.6	1.2
V邸	内陸部	91.0	5.9	3.4
W邸	沿岸部	11.0	ひやーしなし	ひやーしなし

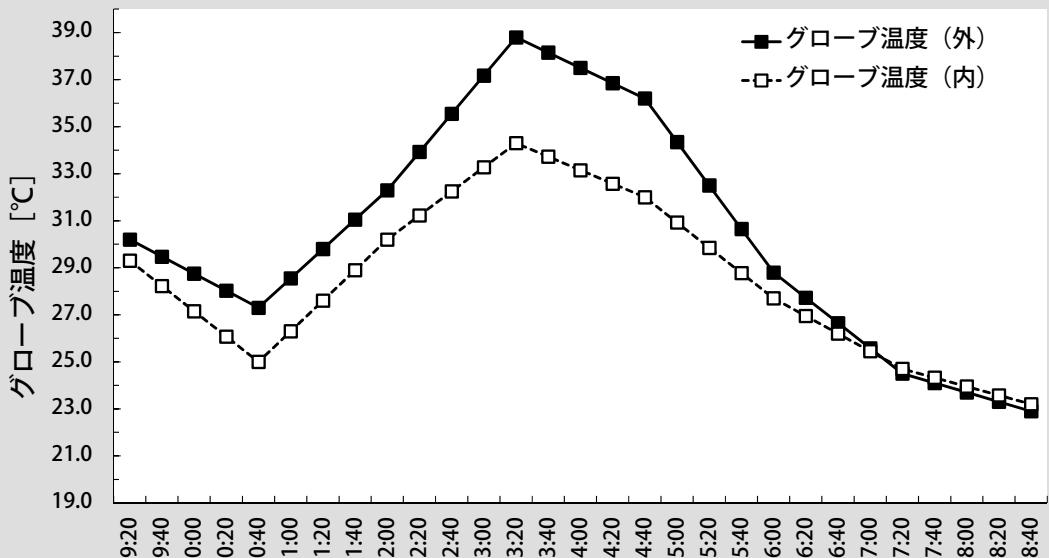
→防風効果にはひやーしの樹高よりも葉張りが影響していると推測できる。

# 風向の観測結果

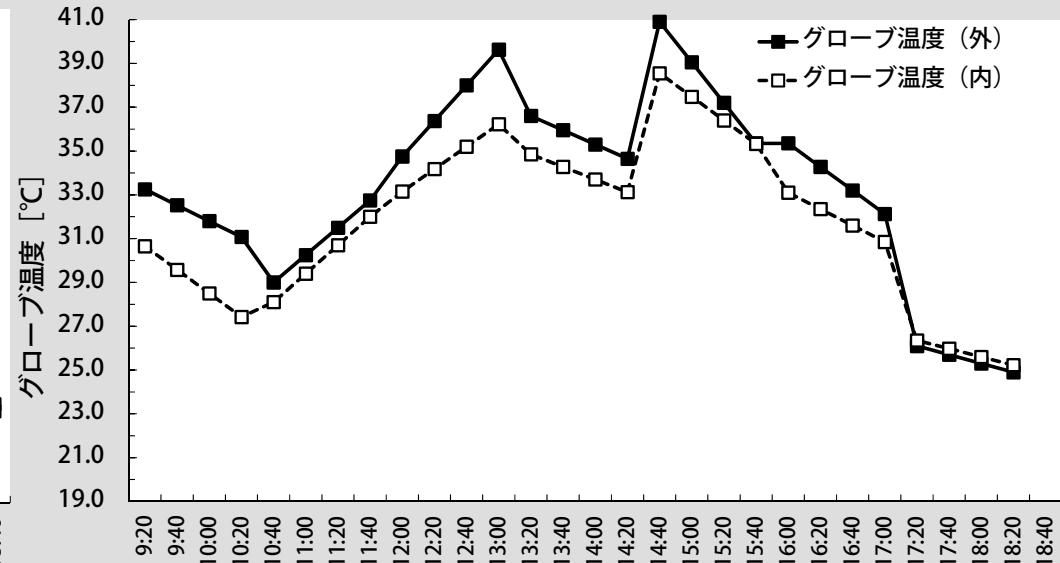


# グローブ温度の観測結果

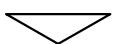
【P邸 19日】



【W邸 19日】



- ひやーしを有する対象では、敷地外に比べて敷地内におけるグローブ温度の方が概ね低い推移にある。
- ひやーしを有していないW邸では、敷地内外問わず最大値が38.0°C以上を観測した。



表面温度の上昇したアスファルト道路等の放射熱がひやーしによって遮断され、敷地内への熱の侵入が防がれたと推測できる。

# 温熱環境評価指標による分析

WBGT：暑熱環境での行動に伴うリスクの度合を判断するために用いられる指標

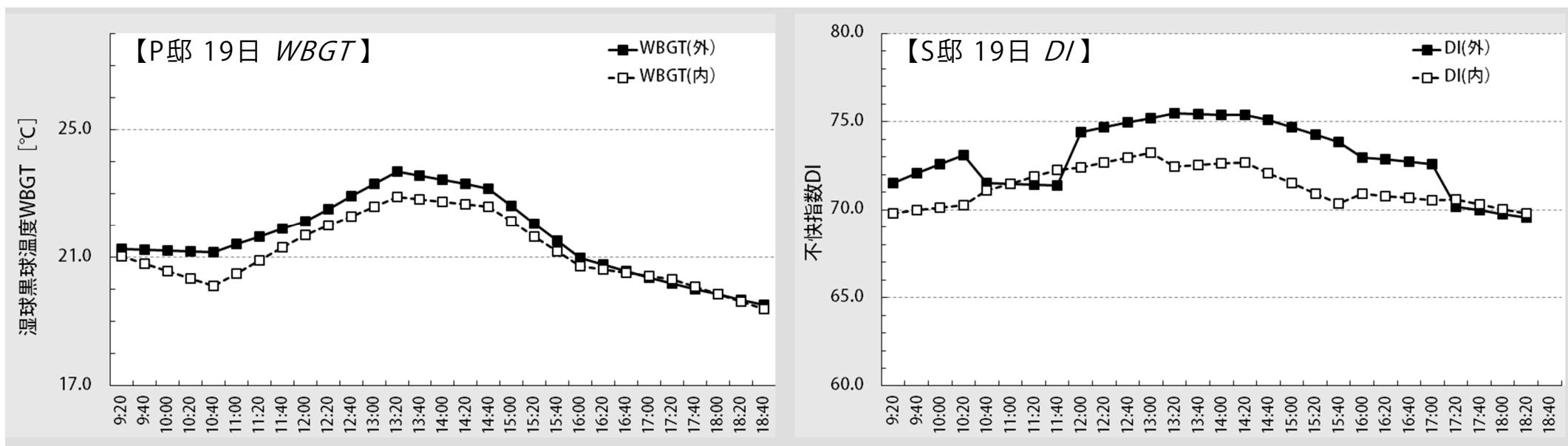
$$WBGT [^{\circ}\text{C}] = 0.7T_w + 0.2T_g + 0.1T_d$$

$T_w$  : 湿球温度 [°C]     $T_g$  : グローブ温度 [°C]     $T_d$  : 乾球温度 [°C]

DI：蒸し暑さを数量的に表した指標

$$DI [^{\circ}\text{C}] = 0.81T_d + 0.01RH(0.99T_d - 14.3) + 46.3$$

$T_d$  : 乾球温度 [°C]    RH : 相対湿度 [%]



気温同様、P邸及びS邸では、敷地外に比べて敷地内の値の方が低く、  
温熱環境の改善が認められた。

# 温熱環境評価指標の基準

WBGT	指針	
31～	運動中止	特別の場合以外は中止する。
28～	厳重警戒／激しい運動中止	激しい運動や持久走は避ける。積極的に休憩を取り、水分補給。体力のない者、暑さになれていない者は運動中止。
25～	警戒／積極的休憩	積極的に休憩し水分補給。激しい運動では30分おきに休憩。
21～	注意／積極的水分補給	死亡事故が発生する可能性。熱中症の兆候に注意。運動の合間に積極的に飲む。
～21	ほぼ安全／適宜水分補給	通常は熱中症の危険は小さい。適宜水分補給。市民マラソンなどでは要注意。

(引用) 学芸出版社 図とキーワードで学ぶ建築環境工学

DI	状況	
85～	非常に暑い	我慢できない不快感
80～	かなり暑い	全員が不快に感じる
75～	暑い	半数以上の人気が不快に感じる
70～	やや暑い	不快感を持つ人が出始める
65～	快い	最も快適
60～	涼しい	
55～	肌寒い	
～55	寒い	

(引用) 学芸出版社 図とキーワードで学ぶ建築環境工学

# ヒアリング調査による居住者の温熱感覚

Q. ひやーしが持つ機能で  
特に重要なものは何ですか。

1. 景観を美しくする
2. 見る人の心を和ませる
3. 火災の延焼防止など災害防止
4. 夏季に涼しさを感じさせる
5. 周りの騒音を小さくする
6. 強風を和らげる
7. 季節を感じさせる
8. 外部からの視線を遮断する

▶ 全6軒中5軒の被験者が「強風を和らげる」と回答

→微気候観測調査において確認された防風効果と併せ、  
ひやーしが持つ防風機能の重要性が窺える。

Q. ひやーしがあることで涼しさを感じますか。

1. 大いに感じる
2. やや感じる
3. どちらとも言えない
4. あまり感じない
5. 全く感じない

▶ P邸、Q邸、R邸、T邸の居住者は  
「大いに感じる」と回答

Q. どういったときに  
あなたは涼しさを感じますか。

1. ひやーしを通る風を感じたとき
2. ひやーしの縁陰に入ったとき
3. ひやーしの縁を目にしたとき
4. 木漏れ日が差し込む様子を見たとき
5. その他

▶ 上記回答者4名のうちQ邸、R邸、T邸の居住者は  
「ひやーしの縁を目にしたとき」と回答

→居住者が涼しさを感じる要因は視覚的影響によるところも大きい。

# 地域景観資源としてのひやーしの特性把握

## 歴史的特性

- 現存する最も古いひやーしは1850年代に造成されたもの。
- 平戸藩では少なくとも江戸時代後期から高生垣があった。
- 平戸藩では武家や庄屋等の裕福な階級の嗜みとして生垣を整備。
- 平戸藩に属していた現在の松浦市と平戸市には共通の文化があり、ひやーしの起源は平戸藩の武家文化に影響を受けたもの。
- ひやーしと石垣が併設された事例は全体の半数以上を占めていた。  
→ ひやーしが石垣保全に寄与し、造成当時の構成を維持している可能性も高く、  
**当時の屋敷や庭の面影を思い起こさせる貴重な歴史的資源と評価される。**

## 営為上の特性

- 主たる機能の他に遊び場や寝床としての活用や実の採取・加工等の副次的な用途が挙げられた。
  - 市民にとってひやーしは日常生活に溶け込んでいるものであった。
  - 所有者の大多数が何らかの問題を感じているにも関わらず、継続的な維持管理に対して意欲的であることが看取された。
- ひやーしは藩政期より松浦の生活の中で連綿と継承されてきた資源であり、  
**言わば松浦市民の日常的営為そのものを反映したものであると評価できる。**

## 自然環境的特性

- 緑陰形成による気温上昇の抑制が確認された。
- 外部からの放射熱が遮断され、敷地内への熱の侵入が防がれた。
- 所有者にとって、ひやーしの防風機能は特に重要度の高い要素であり、微気候観測からも防風効果が確認された。

→ 気温、湿度、気流、熱放射の4要素に関する改善効果が把握され、特に**防風効果**が顕著といえる。 39